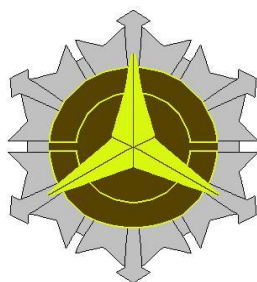


令和8年

消 防 年 報



立山町消防本部

令和8年消防年報

目 次

立山町の概要	1
消防吏員徽章	2
立山町の消防分布図及び消防機械配置図	3
管内人口動態	4
立山町消防のあゆみ	5
総務関係	13
消防警防関係	25
通信指令関係	28
予防安全関係	31
火災統計	36
救急救助統計	42



立 山 町 民 憲 章

霊峰立山に抱かれ、常願寺川の清流に育まれるわたくしたち立山町民はこの誇りあるふるさとを愛し、力を合わせて、良い町づくりに努めます。

1. 郷土を愛し、自然を守り、住みよい町づくりに努めます。
2. きまりを守り、あいさつをかわし、明るい地域づくりに努めます。
3. 仕事に励み、奉仕の心で、豊かな社会づくりに努めます。
4. 健やかで、笑顔で語らい、楽しい家づくりに努めます。
5. 教養を高め、科学を重んじ、文化の町づくりに努めます。

は し が き

○ この年報は、当消防本部における令和7年中の消防業務全般の状況を収録したものであり、今後の消防行政、施策の参考にとともに、広く一般に紹介し、消防に対する理解を深めていただくことを目的として編集しました。

○ この年報については、表の上部等にそれぞれ記載した期日をもって作成してあります。

令和8年7月

立山町消防本部

立 山 町 の 概 要

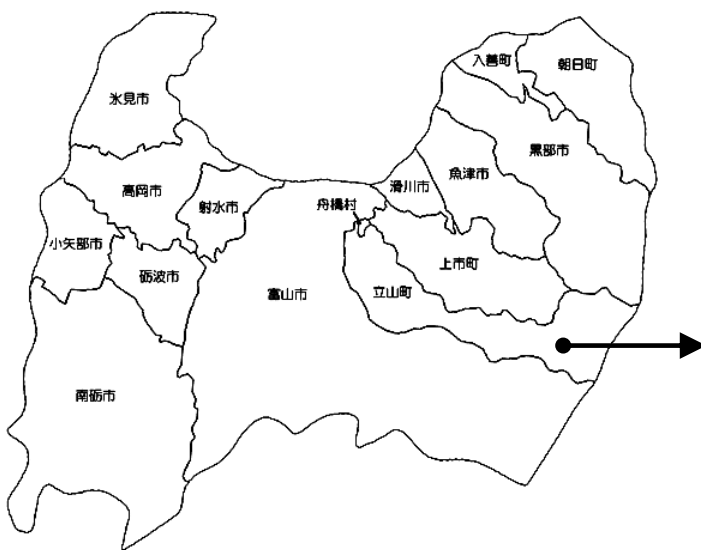
昭和 29 年 1 月 10 日、雄山町を中心に 5 か村（利田、上段、東谷、釜ヶ淵、立山）が合併し
霊峰立山の名にちなんで立山町と命名して発足し、同年 7 月 10 日、新川村の編入合併を経て今
日にいたっている。

本町は、県都富山市から南東よりに位置し、北西部は、一級河川・常願寺川の扇状地であり水
豊かな穀倉地帯である。これが、南東部へおよぶごとに標高が高まり特用林産物の生産地帯へと
移行し、奥地は南北に連なる北アルプス立山連峰を形成している。

気候は、変化に富み、雨や雪が多く、湿度が高い。年間平均気温が 14 度前後で風向きは、温
暖期で南・南西、寒冷期で北東の季節風が多い。

反面、四季の移り変わりが鮮やかなのが特色である。

「人・自然・絆を大切にし、守りながら、みんなが輝く共生のまちづくりに努めます。」を基本
理念とし、「健やかなまち『健康・快適』たてやま、活力のまち『田園・交流』たてやま、学び
のまち『教育・文化』たてやま」を将来像に掲げ、この実現に向けて積極的な施策展開を図って
いる。



・位置 東経 137° 17' ~ 137° 45

北緯 36° 31' ~ 36° 42

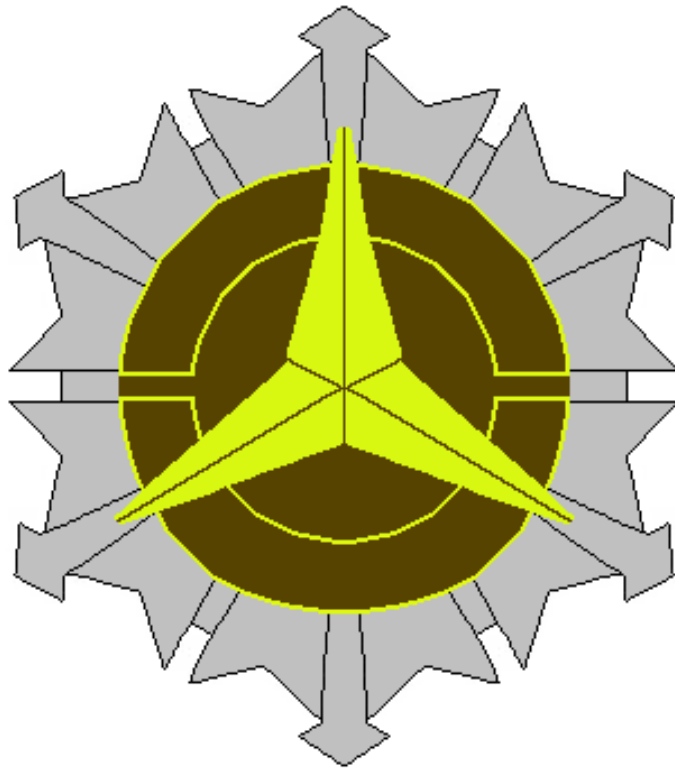
・面積 総面積 307. 29 km²

・人口 23, 932 人

(男 11, 566 人・女 12, 366 人)

・世帯数 9, 659 世帯

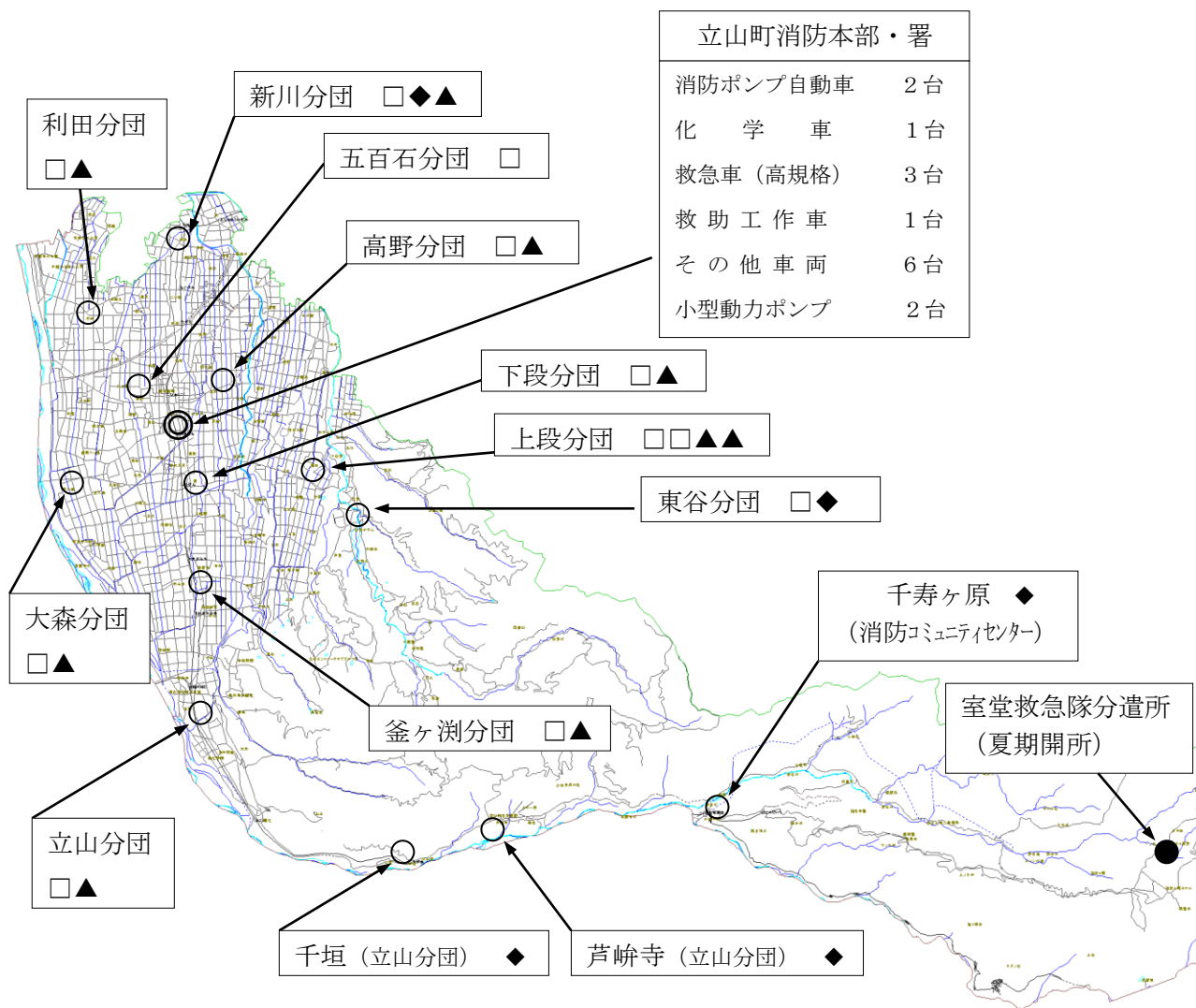
(令和 8 年 4 月 1 日現在)



消 防 吏 員 徽 章

消防マークの中央に町章「立山」の文字を図案化したもので、外輪の丸は行政区域内の融和を意味し、立山の峰を表現する三角錘の合流点を頂点として3つの三角錘は野に山に町に力強く発展する町勢の姿を象徴している。

立山町の消防分布図及び消防機械配置図



記号の解説

- ◎ 消防本部・署
- 分遣所
- 分団詰所・団員詰所
- 消防ポンプ自動車
- ◆ 小型動力ポンプ付積載車
- ▲ 小型動力ポンプ

◇管内人口動態

(令和8年4月1日現在)

区分 地区別	人 口			世 帯 数
	男	女	計	
五 百 石	2,459	2,675	5,134	2,075
高 野	1,093	1,241	2,334	1,007
上 段	629	655	1,284	558
東 谷	149	176	325	155
立 山	890	987	1,877	831
釜ヶ淵	734	812	1,546	624
下 段	1,363	1,379	2,742	1,066
大 森	1,172	1,256	2,428	897
利 田	1,674	1,684	3,358	1,261
新 川	1,403	1,501	2,904	1,185
合 計	11,566	12,366	23,932	9,659

※ 参考(各年度国勢調査による)

年 度 別	男	女	計	世 帯 数
昭和40年	13,720	14,166	27,886	5,861
昭和50年	13,178	14,048	27,226	6,446
昭和60年	13,509	14,432	27,941	6,846
平成7年	13,132	14,312	27,444	7,762
平成12年	13,446	14,548	27,994	8,427
平成17年	13,422	14,589	28,011	8,830
平成22年	13,200	14,266	27,466	8,992
平成27年	12,663	13,654	26,317	9,159
令和2年	12,002	12,790	24,792	9,047

立山町消防のあゆみ

昭和 24年	12月	雄山町消防本部(署)を設置し、署員4名・車両1台で発足
25年	12月	職員1名増員(総員5名)
29年	1月	1町5ヶ村を合併し、立山町消防本部(署)設置。立山町消防団が9分団で発足
	1月	初代消防団長 菅原徳三氏就任
	7月	職員1名増員(総員6名)
	7月	新川村を編入合併し10分団となる
	8月	職員1名増員(総員7名)
31年	4月	職員1名増員(総員8名)
	7月	立山町消防団を1団4分団に改編
	12月	職員2名増員(総員10名)
	12月	立山町消防署 東部、南部、北部分遣所を配置
	12月	初代消防署長 住松 實氏就任
33年	8月	消防庁舎竣工(旧庁舎 立山町米沢7の2)
34年	4月	職員3名増員(総員13名)
	12月	消防ポンプ自動車(BS-I型)を購入
37年	4月	職員1名増員(総員14名)
	7月	日中柴山婦人消防隊結成(立山町初)
	8月	第2代消防団長 高平公友氏就任
38年	2月	雪害対策活動中2名殉職(消防司令長 戸田 光氏、消防副団長 林 正明氏)
	4月	第2代消防署長 塚本正生氏就任
	9月	職員1名増員(総員15名)
	12月	消防ポンプ自動車(BS-I型)を購入
40年	12月	南部分団立山班に消防ポンプ自動車(BS-I型)を配置
41年	2月	立山町・大山町消防相互応援協定を締結
42年	4月	指令車(日産 セドリック ワゴン)を購入し、これをもって救急業務を開始
43年	4月	第3代消防署長 信濃信義氏就任
	12月	中部分団五百石班に消防ポンプ自動車(BD-II型)を配置
44年	3月	富山県市町村消防相互応援協定を締結
	4月	職員2名増員(総員17名)
45年	1月	第4代消防署長 浜田清一氏就任
	4月	職員2名増員(総員19名)
46年	3月	日本自動車工業会より救急車(トヨタ 2B型)が寄贈
	4月	職員1名増員(総員20名)
	6月	政令により消防本部 消防署が設置された
	6月	立山道路(有料道路)供用開始 桂台～美女平、室堂まで走行可能となる
	7月	職員1名増員(総員21名)
	7月	美女平分遣所を開設 県から救急車(トヨタ ランドクルーザー)が貸与され立山アルペンルートでの救急業務を開始
	10月	職員1名増員(総員22名)
47年	4月	職員1名増員(総員23名)
48年	4月	舟橋村の救急業務を受託
	6月	現消防庁舎落成(鉄筋コンクリート2階建一部4階 816.72㎡)立山町米沢36

昭和 48年 10月 県下消防署消防操法大会で初優勝
12月 北部分団新川班に消防ポンプ自動車(BS-I型)を配置
49年 6月 政令により救急業務の実施指定を受けた
8月 東部分団上段班に消防ポンプ自動車(BS-I型)を配置
10月 中部分団利田班に小型動力ポンプ積載車を配置
50年 3月 殉職職団員13回忌追悼式を営む
8月 東部分団東谷班に小型動力ポンプ積載車を配置
8月 南部分団釜ヶ淵班に小型動力ポンプ積載車を配置
8月 日本船舶振興会寄贈の小型動力ポンプ付積載車を中部分団大森班に配置
51年 4月 消防団条例改正10名増の320名
9月 中部分団高野班に小型動力ポンプ積載車を配置
9月 中部分団下段班に小型動力ポンプ積載車を配置
9月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車(BD-I型)が寄贈され署に配備
52年 2月 第5代消防署長 杉本圭介氏就任
53年 11月 重化学車(日野 III型)を購入
54年 4月 職員2名増員(総員25名)
11月 指令車(日産 グロリア ワゴン)を更新
55年 3月 日本損害保険協会から救急車(トヨタ 2B型)が寄贈
6月 立山町少年婦人防火委員会を設置
11月 消防ポンプ自動車(CD-II型 署2号車)を購入
12月 北陸自動車道開通により消防救急業務を開始
12月 救急車(トヨタ 2B型)を購入
56年 4月 職員2名増員(総員27名)
4月 立山町消防団を1団10分団に改編
9月 消防庁舎車庫を増築(鉄骨造折板葺) 109. 679㎡
10月 消防救急指令装置(消防庁C型)と救急復信無線電話局を設置
11月 南部分団所落成(鉄骨造平屋建) 143. 52㎡
57年 3月 立山地区スタンド協会から指令車(トヨタ コロナ バン)が寄贈
10月 利田分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 80. 82㎡
10月 東谷分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 79. 92㎡
11月 五百石分団の消防ポンプ自動車(CD-II型)を更新
58年 8月 日本船舶振興会より広報車(トヨタ バン)が寄贈された
12月 第3代消防団長 坂井昭二氏就任
59年 2月 釜ヶ淵分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 79. 92㎡
2月 大森分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 80. 46㎡
2月 立山分団の消防ポンプ自動車(CD-II型)を更新
10月 初代消防長 杉本圭介氏就任
10月 高野分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 80. 82㎡
11月 資器材搬送車を購入
11月 下段分団詰所落成(鉄筋コンクリート平屋建 公民館と併設) 80. 58㎡
60年 3月 殉職消防職団員23回忌追悼式を営む
4月 第六代消防署長 村上賢二氏就任
8月 日本消防協会から小型動力ポンプ積載車(日産)が寄贈され、芦峯詰所へ配置
11月 上段分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 99. 63㎡

昭和	60年	11月	山之内製薬(株)から救急車(日産 2B型)が寄贈された
	61年	3月	消防庁舎通信指令室増築(鉄骨造平屋建) 7. 8㎡
		11月	新川分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 107. 81㎡
		12月	利田分団の小型動力ポンプ積載車(日産)を更新
	62年	4月	第2代消防長 村上賢二氏就任
		4月	立山町婦人消防隊連合会設立
		6月	日本防火協会から防火広報車(いすゞ ファーゴ)が寄贈された
		12月	水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ型)を購入
	63年	12月	日本損害保険協会から救急車(いすゞ 2B型)が寄贈された
平成	元年	4月	第7代消防署長 林 善暉氏就任
		7月	条例改正で消防団員定数を323名とする(3名増員)
		12月	救急車(トヨタ 2B型 4WD)を更新
	2年	4月	条例改正により消防職員定数27名(実員27名)となる
		5月	立山町消防団山岳救助協力隊発足
		8月	総合気象観測装置を設置
	3年	1月	高野分団の小型動力ポンプ積載車(日産)を更新
		2月	新川分団の消防ポンプ自動車 (CD－Ⅰ型)を更新
		4月	条例改正により消防職員定数28名(実員28名)となる
		4月	第3代消防長 林 善暉氏就任
		7月	指令1号車 (トヨタ クラウン ワゴン)を更新
		9月	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車(Ⅰ－B型)寄贈
		10月	釜ヶ淵地区婦人消防隊結成
		10月	下段分団に消防ポンプ自動車(旧 署2号車)を配置
		10月	千垣地区、新瀬戸地区に小型動力ポンプ付積載車を配置
		12月	上段分団の消防ポンプ自動車 (CD－Ⅰ型)を更新
		12月	利田分団に消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を配置
	4年	1月	高度情報通信ネットワークが完成
		4月	条例改正により消防職員定数29名(実員29名)となる
		10月	第8回全国婦人消防操法大会(横浜市)に 釜ヶ淵地区婦人消防隊が出場
		12月	消防署訓練塔落成(主塔・鉄骨造5階建、副塔・鉄骨造平屋建)
		12月	立山分団芦峯詰所落成(鉄骨造一部2階建) 98. 85㎡
		12月	東谷分団に消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を配置
		12月	釜ヶ淵分団に消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を配置
	5年	4月	第8代消防署長 坂井繁好氏就任
		4月	富山県防災情報システムを運用開始
		11月	大森分団に消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を配置
		11月	高野分団に消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を配置
	6年	4月	条例改正により消防職員定数30名(実員30名)となる
		8月	日本消防協会から救急車(トヨタ 2B型)が寄贈された
		11月	コミュニティ消防センター(千寿ヶ原)落成 165. 17㎡
		12月	ジープ型指令車(トヨタ ランドクルーザー)を購入
	7年	3月	殉職職団員33回忌追悼式を営む
		4月	条例改正で消防団員定数を325名とする
		5月	新活動服を採用(職員)

平成 7年	6月	消防団「団旗」を更新
	10月	下段分団の消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を更新
	10月	五百石分団詰所落成(鉄骨造二階建) 138. 15㎡
8年	2月	日本消防協会から「まとい」を受領
	3月	高規格救急自動車(トヨタ)を購入
	6月	消防広報車(スズキ エスクード)を更新
	10月	消防職員委員会が発足
	11月	立山分団千垣詰所(鉄骨造二階建)を新築 78. 3㎡
	11月	初の救急救命士が誕生
9年	3月	立山町消防職員協議会結成
	4月	新制服を採用(職員)
	4月	3班3部制勤務を開始
	11月	消防庁舎の耐震調査診断を実施
10年	3月	救助工作車(Ⅱ型)を購入
	10月	五百石分団の消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を更新
11年	4月	第4代消防長 坂井繁好氏就任
	9月	立山分団の消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を更新
	12月	第4代消防団長 舟橋幸甚氏就任
	12月	消防緊急通信指令台(Ⅰ型)の更新
12年	1月	防火衣(東消上下型)の更新
	3月	望楼撤去及び消防無線専用鉄塔30mを敷地内に設置
	4月	第9代消防署長 古田精一郎氏就任
	10月	第5代消防長 古田精一郎氏就任
	10月	庁舎耐震補強工事完成
	12月	立山地区芦峠寺集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
13年	3月	山之内製薬(株)から高規格救急自動車(トヨタ)が寄贈(更新配備)
	4月	第10代消防署長 城戸辰雄氏就任
	11月	水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ型)を購入
	12月	現場指揮車を購入 (トヨタ)
14年	1月	東谷地区目桑集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
	7月	立山町室堂救急隊分遣所開設(富山県立山センター内)。美女平分遣所廃止
	12月	東谷分団詰所を移転(旧白岩生活改善センターを全面改築、車庫新築)189. 9㎡
15年	1月	立山地区千垣集落の小型動力ポンプ付積載車を更新
	4月	第11代消防署長 山林信男氏就任
	4月	新活動服を採用(職員)
	8月	環境 ISO 14001 取得(役場と協調)
	12月	第5代消防団長 高平公嗣氏就任
	12月	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(1,700ℓ水槽、500ℓ薬液槽付き)を更新配備
16年	1月	新川地区女川新集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
	3月	南部分遣所廃止 立山分団詰所となる
	4月	第12代消防署長 荒木重光氏就任
	7月	新活動服を採用(団員)
	10月	庁舎防水工事施工

平成 17年	3月	救急自動車(トヨタ 2B型)を救急3号車として更新
	4月	新盛夏服を採用(職員)
	6月	組織機構改革(役場と協調)
	9月	携帯電話による119番通報 直接受信方式となる
	11月	上段地区新瀬戸集落の小型動力ポンプ付積載車(日産)を更新
	12月	日中・柴山婦人消防隊が活動休止
18年	6月	新盛夏服を採用(団員)
19年	4月	第6代消防長 荒木重光氏就任
	4月	消防職員定数30名(実員29名)となる
	6月	薬剤追加講習に救急救命士を派遣養成(1人目)
	10月	消防大学校 消防団長科 高平団長入校
	11月	泉集落に小型動力ポンプ置場新築
20年	4月	第13代消防署長 薄田雅寛氏就任
21年	2月	デジタル無線の県内共通波電波伝搬調査実施
	2月	日本消防協会から指揮広報車(スバル レガシイ)が寄贈 指令1号車として更新配備
	7月	庁舎空調工事第1期完了
22年	1月	東谷(目桑)地区の小型動力ポンプ付積載車車庫改築
	3月	新川分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
	4月	第14代消防署長 佐伯秋雄氏就任
	6月	消防署訓練用地として庁舎南側の貸借地1,120㎡を購入
	8月	芦峯積載車を多機能型小型動力ポンプ積載車(国無償貸与)に更新
	9月	庁舎空調工事第2期完了
	12月	消防署訓練塔主塔一部改修工事完了
23年	1月	都市型ロープレスキュー資器材購入配備
	2月	利田分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
	2月	東部広域消防任意運営協議会枠組みから正式離脱
	3月	東日本大震災発生 緊急消防援助隊(消火隊)を宮城県名取市に派遣
	3月	富山県消防協会中新川支部の発展的解散
	3月	新規採用消防職員を1年間定数外職員とする条例可決(※その後削除)
	4月	第15代消防署長 野村真太郎氏就任
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名派遣(初)
	4月	新規採用職員3名採用(実員32名)
	7月	富山市と立山町との消防相互応援協定を締結
	10月	舟橋村の救急業務委託を1年間延長する契約を締結
	11月	全消防団員へ冬季活動用防寒衣を貸与
	12月	五百石分団詰所を草野地内に移転新築
	12月	消防補償組合へ東日本大震災関連として追加負担金を納入
	12月	上段分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
	12月	消防広報車更新配備(日産 エクストレイル)
24年	1月	殉職職団員50回忌追悼式を営む
	2月	災害対応型特殊救急自動車を購入し救急2号車として更新配備
	4月	第16代消防署長 古川信一氏就任
	4月	新規採用職員1名採用(実員32名)
	8月	消防団安全対策設備としてブルーライト(夜間照明装置)を各分団に配備
	12月	釜ヶ淵分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備

平成 25年	3月	日中火の見櫓兼消防器具置場撤去
	3月	消防職員定数、条例改正により32名となる(3月19日付け)
	3月	県東部消防本部消防事務開始に伴い 舟橋村との救急業務委託契約満了
	4月	第17代消防署長 荻生義明氏就任
	4月	新規採用職員2名採用(実員32名)
	8月	災害対策用エアーテント購入
	9月	消防団員用カスタムベスト180着を購入配備
	10月	第7代消防長 荻生義明氏就任
	10月	高速道路救急救助訓練実施(開催地・立山町)
	10月	消防救急デジタル無線整備事業契約 着工
	10月	立山町消防庁舎大規模改修工事(通信指令室増築工事含む)開始
	11月	東谷分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
	11月	消防指令車(2号車)更新配備(日産 エクストレイル)
	11月	アステラス製薬㈱から高規格救急自動車(トヨタ)が寄贈 救急1号車として更新配備
	11月	消防団120周年・自治体消防65周年記念大会参加
	12月	災害対応特殊消防ポンプ自動車(CD-I型 600ℓ水槽CAFS付)更新配備
26年	1月	消防庁舎緊急避難所機能整備工事完成
	1月	消防庁舎通信指令室増築工事完成
	3月	消防庁舎緊急避難所機能整備工事(その2)完成
	3月	消防署敷地内に40㎡耐震性貯水槽設置
	4月	第18代消防署長 金尾光保氏就任
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名を派遣(隊員交替 2人目)
	4月	新規採用職員1名採用(実員32名)
	9月	高機能通信指令システム試験運用開始
	9月	大森分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
	11月	(財)日本損害保険協会から小型動力ポンプ付軽消防自動車(スズキ)が寄贈され 東谷(目桑)の車両を更新。旧車両を千寿ヶ原自主防災組織へ譲渡
	12月	立山町消防庁舎大規模改修工事完了 消防署南側駐車場舗装工事完了
	12月	立山町消防救急デジタル無線整備工事竣工 運用開始
27年	4月	第19代消防署長 桂沢 誠氏就任
	6月	下段分団(日俣)小型動力ポンプ(4サイクル仕様)購入
	9月	高野分団消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新配備
	9月	消防団水防活動用ライフジャケット115着を購入配備
	11月	雪崩災害対策用資器材3セットを購入配備
	12月	消防署員用防火衣(東消型)12着更新
28年	3月	消防庁舎太陽光発電パネル設置工事完了
	3月	第5代消防団長 高平公嗣氏急逝 副団長 田村 保氏が団長代行就任
	4月	第8代消防長 桂沢 誠氏就任(第19代消防署長兼務)
	4月	新規採用職員2名採用(実員33名)
	4月	立山町婦人消防隊連合会を解散し、立山町女性防火クラブを設立
	5月	第6代消防団長 田村 保氏就任
	9月	高野分団詰所を江崎地内に移転新築
	11月	第1回立山町消防フェスティバル2016開催(来場者470名)
	11月	下段分団の消防ポンプ車(CD-I型)を更新配備

平成 28年	12月	大森分団詰所を東大森地内に移転新築
	12月	日本消防協会から防災広報車(日産NV)が寄贈され広報2号車として配備
29年	1月	消防資機材搬送車(トヨタ)を更新配備
	3月	利田分団詰所移転新築
	4月	立山町消防団応援の店事業を開始
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名派遣(隊員交替 3人目)
	5月	糸魚川大規模火災現地視察を実施
	6月	初の立山町女性消防団員を任用
	7月	遭難対策用無線機2台を購入配備
30年	4月	第20代消防署長 金山 彰氏就任
	4月	新規職員3名採用 役場総務課へ1名異動(実員34名)
	7月	消防署訓練塔ホース吊り機改修
	11月	応急手当普及員制度(消防団員対象)開始
	11月	立山分団消防ポンプ車(CD-I型)更新配備
平成 31年	3月	釜ヶ淵分団詰所を道源寺地内に移転新築
令和 元年	7月	機能別消防団員初採用(4名)
(H31とR元	10月	五百石分団消防ポンプ車(CD-I型)更新配備
は同年)	11月	高規格救急自動車を更新配備(旧2B型救急自動車を更新)
2年	2月	救助資器材搭載型消防ポンプ車(消防庁無償貸付車両)上段分団(新瀬戸)に配備
	4月	第9代消防長 金山 彰氏就任(消防署長兼務)
	4月	新規職員1名採用(実員34名)
	4月	第7代消防団長 亀山 彰氏就任
	10月	無人航空機(ドローン)を購入し運用開始
	11月	消防庁舎屋上防水補修工事完了
3年	2月	多機能型消防ポンプ自動車(13m塔体付き車両)新規配備
	3月	上段分団詰所を福田地内に移転新築
	4月	第21代消防署長 西田 治氏就任
	4月	新規職員1名採用 役場総務課へ1名異動(実員34名)
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名派遣(隊員交替 4人目)
	7月	訓練塔副塔昇降用階段設置工事完了
	10月	高速道路救急救助訓練実施(開催地・立山町)
	11月	亀山消防団長 消防大学校(消防団長科)入校
	11月	富山市と消防指令業務の共同運用に関する基本合意書締結
	12月	職員定数条例一部改正 定数36名(令和5年度からの指令業務共同化に向けた増員措置)
4年	1月	現場指揮車更新配備
	4月	新規職員2名採用(実員36名)
	4月	消防団員報酬改正(年額報酬 出動報酬 費用弁償)
	4月	消防指令業務共同化に係るシステム改修業務委託契約(富山市で契約)
	6月	立山町消防署通信指令室 通信機械室 無線設備等改修工事契約(立山町で契約)
	7月	救命ボート 水難救助用資器材購入配備
	7月	自動心臓マッサージシステム(2台目)購入配備
	9月	新活動服(ストレッチ活動服)を採用(職員)

- 5年 1月 富山市との消防指令業務共同運用開始に先立ち、試験運用のため職員4名富山市へ研修派遣(1月31日～3月31日)
- 2月 富山市と立山町との消防指令業務に係る事務の委託に関する規約策定(共同運用推進協議会にて両首長合意)
- 2月 富山市・富山県東部消防組合・立山町消防相互応援協定書締結(4月1日施行)
- 3月 富山市と立山町との消防指令業務に係る事務委託について 3月議会議決
- 3月 消防指令業務共同化に伴う、指令システム整備完了
- 3月 立山町消防署通信指令室、通信機械室、無線設備等改修工事完了
- 4月 富山市との消防指令業務共同運用開始 職員4名派遣
- 4月 第10代消防長 西田 治氏就任
- 4月 第22代消防署長 松岡 靖彦氏就任
- 4月 新規職員2名採用 役場総務課へ1名異動(実員37名)
- 6月 豪雨災害 白岩川ダム緊急放流による白岩川堤防越水(白岩地内)
- 7月 豪雨災害 富山県内に初の線状降水帯発生
- 12月 救助工作車(Ⅱ型)更新配備
- 6年 1月 令和6年能登半島地震発生 緊急消防援助隊(救急隊・後方支援隊)を石川県珠洲市へ派遣(1月10日～22日 1次～4次隊)
- 3月 小型動力ポンプ付積載車(消防庁無償貸付車両)立山分団(千垣)に配備
- 4月 新規職員1名採用(実員38名)
- 4月 富山県防災航空センターへ隊員1名派遣(隊員交替5人目)
- 7年 4月 第11代消防長 松岡 靖彦氏就任(消防署長兼務)
- 新規職員1名採用(実員37名)
- 9月 消防署防災拠点避難地夜間照明設置工事完了
- 12月 高規格救急自動車を更新配備
- 8年 3月 消防署員用防火衣更新(4年計画)
- 3月 富山市との消防指令業務共同運用に伴う職員派遣終了(4名)
- 3月 消防署防災拠点避難地備蓄倉庫設置工事完了
- 4月 第23代消防署長 寺崎 正志氏就任
- 4月 新規職員1名採用(実員37名)

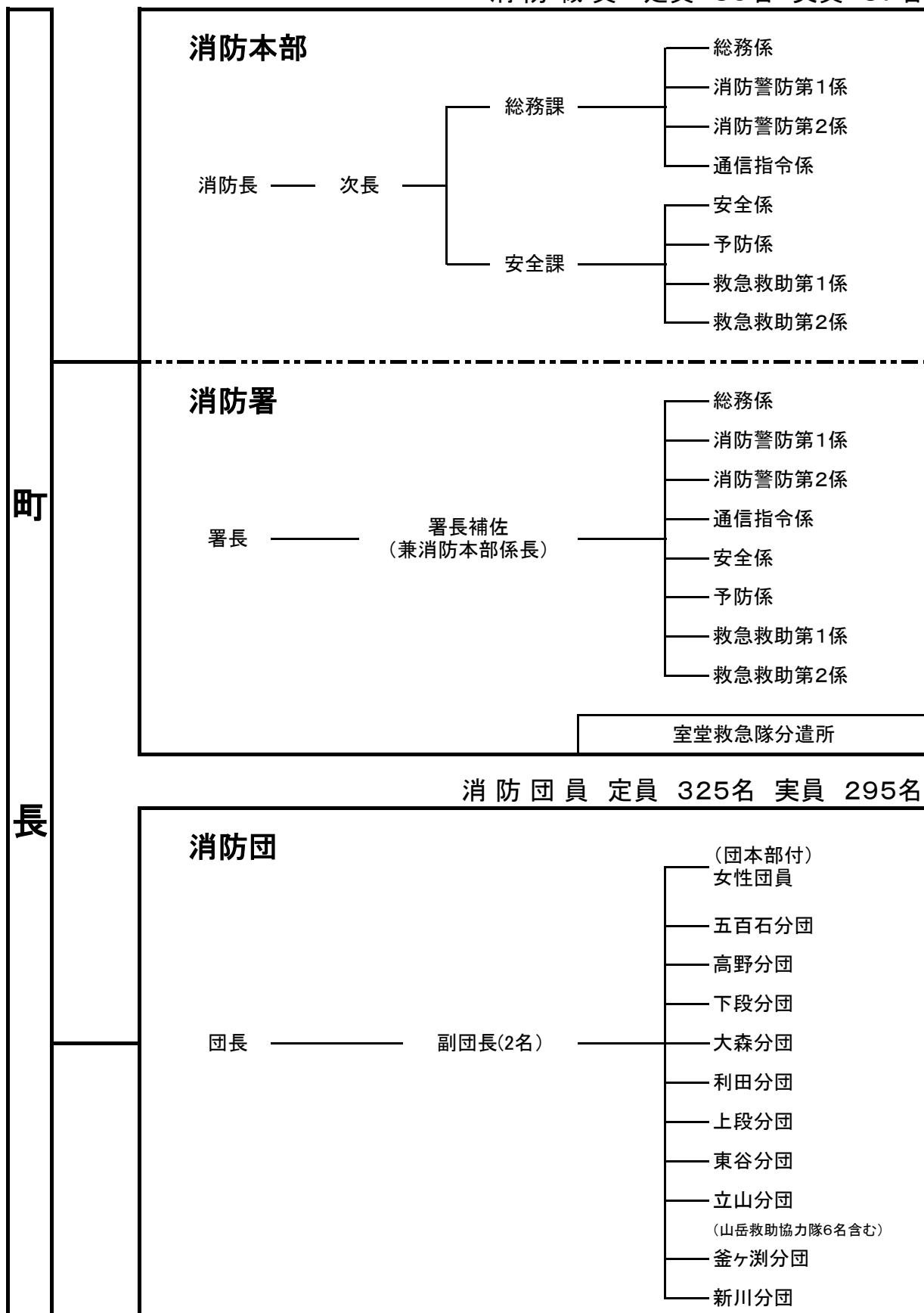
総務



立山町消防組織図

(令和8年4月1日現在)

消防職員 定員 36名 実員 37名



事 務 分 掌

消防本部(署)

総 務 係

1. 職員の人事に関する事。
2. 予算及び決算に関する事。
3. 条例及び規則等に関する事。
4. 消防長会に関する事。
5. 補助金等の事務に関する事。
6. 職員の教養及び福利厚生に関する事。
7. 文書の収発に関する事。
8. 他の係の主掌に属しない事。
9. 物品の購入及び施設造営物の取得に関する事。
10. 各種儀式、会議に関する事。
11. 他の分掌に属さない事。

消防警防 第1係

1. 消防防災計画に関する事。
2. 消防広報及び火災予防宣伝に関する事。
3. 警戒防御に関する事。
4. 消防車両及び機械器具の点検整備及び安全管理等に関する事。
5. 開発行為に伴う消防水利の整備に関する事。
6. 消火栓及び防火水槽等の調査点検整備に関する事。
7. 消防用ホースの管理保全に関する事。
8. 消防用燃料及びその他の油脂類に関する事。

消防警防 第2係

1. 市町村消防補償組合に関する事。
2. 消防協会に関する事。
3. 緊急消防援助隊に関する事。
4. 消防団幹部会に関する事。
5. 消防団の人事及び表彰に関する事。
6. 退職消防団員に関する事。

通信指令係

1. 消防通信の管理に関すること。
2. 消防通信施設の維持管理に関すること。
3. 災害支援情報等の管理に関すること。
4. 消防気象情報に関すること。
5. 火災・救急・救助その他災害出動の指令運用に関すること。
6. 消防・救急無線及び防災行政無線の運用に関すること。
7. 災害支援情報等の運用に関すること。
8. 消防情報、統計、資料の収集及び年報作成に関すること。
9. 道路の通行制限に関すること。

予 防 係

1. 建築物の確認同意事務に関すること。
2. 消防用設備等の設置指導及び検査に関すること。
3. 消防設備士の育成指導に関すること。
4. 防火管理者の育成指導に関すること。
5. 防火対象物の立ち入り検査に関すること。
6. 単身高齢者に関すること。
7. 火災予防に関すること。
8. 火災の原因調査及び損害調査に関すること。

安 全 係

1. 危険物の許可事務に関すること。
2. 危険物施設の安全指導及び検査に関すること。
3. 危険物、消防活動阻害物質及び指定可燃物に関すること。
4. 危険物取扱者及び保安監督者の育成指導に関すること。
5. 液化石油ガス、高圧ガス及び火薬類等の規制に関すること。
6. 危険物安全協会に関すること。

救急救助第1係

1. 消防操法の指導に関すること。
2. 救助訓練に関すること。
3. 救助器具装備に関すること。
4. 幼少年、女性防火等の民間防火団体の育成指導に関すること。
5. 防火作品の募集に関すること。
6. 自主防災組織訓練、避難訓練に関すること。

救急救助第2係

1. 救急業務、救助業務及び救急救命士に関すること。
2. 高速道路及びアルペンルートに関すること。
3. 職員及び団員の訓練に関すること。
4. 応急手当の普及啓発に関すること。
5. 救急器具装備に関すること。

◇消防施設の現況

(令和8年4月1日現在)

施設名	所在地	電話番号	敷地面積 (㎡)	建築延面積 (㎡)	構造	竣工年月日	建築費 (千円)	備考
立山町消防本部 (立山町消防署)	米沢36	463-0005 FAX 463-1610	4,722.39	991.19	鉄筋コンクリート造2階建	S.48.6.7	消防庁舎(総工費)	50,156
					鉄骨造折版葺	S.56.9.30	車庫(増築)	11,950
						S.61.3.28	通信指令室(増築)	3,130
						H.12.10.27	消防庁舎耐震補強工事	13,230
						H.26.3.24	通信指令室(増築)	31,433
						H.26.3.24	緊急避難所機能整備工事	26,072
訓練塔	米沢36	—	47.44	主塔168.00 副塔 31.20	鉄骨造5階建 17M 鉄骨造平屋建 7M	H.4.11.27		33,887
室堂救急隊分遣所	芦峠寺ブナ坂	463-5519	室堂 立山センター内に季節開所(7月、8月)					
上段分団詰所	福田622	463-0424	644.73	152.37	木造平屋建鋼板葺	R.3.3.12	総工事費	64,904
釜ヶ淵分団詰所	道源寺849	463-2894	470.91	145.75	木造平屋建鋼板葺	H.31.3.15	総工事費	54,004
利田分団詰所	利田1081-2	463-3229	507.00	146.33	木造平屋建鋼板葺	H.29.3.15	総工事費	46,856
大森分団詰所	東大森420番2	463-2464	856.19	145.75	木造平屋建鋼板葺	H.28.10.31	総工事費	49,934
高野分団詰所	江崎9番1	462-2170	497.04	144.19	木造平屋建鋼板葺	H.28.8.31	総工事費	49,088
五百石分団詰所	草野95番1	463-5811	231.68	153.05	木造平屋建鋼板葺	H.23.11.30	総工事費	25,049
東谷分団詰所	白岩12	463-2440	542.30	153.90 車庫36.0(別棟)	補強コンクリートブロック造平屋建 鉄骨造平屋建折版葺	H.14.9.30	総工事費	19,267
新川分団詰所	浦田408-4	464-1054	807.77	107.81	鉄骨造平屋建折版葺	S.61.11.20	総工事費	14,580
下段分団詰所	榎43	463-3251	1,537.18 (公民館と共同)	80.58	鉄筋コンクリート造平屋建 (公民館併設)	S.59.12.20	総工事費	9,999
立山分団詰所	宮路10-2	483-0300	510.00	143.52	鉄骨造平屋建折版葺	S.56.11.9	総工事費	21,298
立山分団芦峠詰所	芦峠寺10-1	—	138.40 (借地)	98.85	鉄骨造一部2階建カー 鉄板瓦棒葺	H.4.12.3	総工事費	16,304
立山分団千垣詰所	千垣311-1	—	78.61 (借地)	78.30	鉄骨造2階建折版葺	H.8.11.6	総工事費	12,051
千寿ヶ原コミュニティー 消防センター	芦峠寺ブナ坂50-3	482-1010	291.10	165.17	鉄筋コンクリート造平屋建	H.6.11.25	総工事費	30,174

◇消防職員の定数・実員及び配置状況

	定 員	実 員
消防職員	36	37

消防職員1名に対する面積 8.31 km²

〃 人口 647 人

〃 世帯数 261 世帯

(令和8年4月1日現在)

階 級 所 属		消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計
消 防 本 部 ・ 署	消 防 長	1						1
	消 防 次 長 ・ 総 務 課 長 ・ 安 全 課 長 (署 長)		1					1
	総 務 係		1	1	1		1	4
	消 防 警 防 第 1 係		1	1	1		1	4
	消 防 警 防 第 2 係		1	1	1		1	4
	通 信 指 令 係		1		2			3
	予 防 係		2	1	2		2	7
	安 全 係		1	1	1			3
	救 急 救 助 第 1 係		1	1	1		2	5
	救 急 救 助 第 2 係		1	1	1		1	4
富山県防災航空センター(派遣)					1			1
計		1	10	7	11	0	8	37

◇消防職員の階級別年齢状況

(令和8年4月1日現在)

年 令 \ 階 級	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計
2 0 才 未 満						1	1
2 0 才 ~ 2 4 才						6	6
2 5 才 ~ 2 9 才						1	1
3 0 才 ~ 3 4 才				9			9
3 5 才 ~ 3 9 才			3	2			5
4 0 才 ~ 4 4 才			3				3
4 5 才 ~ 4 9 才		2	1				3
5 0 才 ~ 5 4 才		6					6
5 5 才 以 上	1	2					3
計	1	10	7	11	0	8	37

◇消防職員の階級別在職年数状況

(令和8年4月1日現在)

年 数 \ 階 級	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計
1 年 未 満						1	1
1 年 ~ 4 年						5	5
5 年 ~ 9 年				1		2	3
1 0 年 ~ 1 4 年				6			6
1 5 年 ~ 1 9 年			5	4			9
2 0 年 ~ 2 4 年			2				2
2 5 年 ~ 2 9 年		3					3
3 0 年 以 上	1	7					8
計	1	10	7	11	0	8	37

◇消防団員の階級別年齢状況

(令和8年4月1日現在)

階級 年齢	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機能別	計
20才未満									0
20才～24才							5		5
25才～29才							8		8
30才～34才							6		6
35才～39才						1	18		19
40才～44才						10	28		38
45才～49才				1	5	17	35		58
50才～54才				2	10	17	34		63
55才～59才			3	3	12	12	14	2	46
60才～64才			5	5	5	2	6	4	27
65才以上	1	2	2		2	3	1	14	25
計	1	2	10	11	34	62	155	20	295

◇消防団員の階級別在職年数状況

(令和8年4月1日現在)

階級 年数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機能別	計
1年未満							12	3	15
1年～4年							43	1	44
5年～9年	1					8	52	4	65
10年～14年					2	18	31	1	52
15年～19年					6	20	5	1	32
20年～24年			2	4	14	9	7		36
25年～29年		1	5	4	5	7	3	1	26
30年以上		1	3	3	7		2	9	25
計	1	2	10	11	34	62	155	20	295

◇消防職員の教養実施状況(過去5年間)

(令和8年4月1日現在)

年 度		令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	計
富山県消防学校	初 任 科	1	2	2	1	1	7
	危 険 物 科	1					1
	火 災 調 査 科	1				1	2
	予 防 査 察 科		1		1		2
	機 関 員 養 成 講 習	1	1	1	1	1	5
	救急科(標準課程)	1	1	2	2	1	7
	2 処 置 追 加 講 習						0
	救 助 科	1					1
	初 級 幹 部 科				1		1
	中 級 幹 部 科	1					1
	上 級 幹 部 科						0
	特 殊 災 害 科						0
	警 防 科		1				1
	自 然 災 害 科	1					1
救急振興財団	救急救命東京研修所						0

◇消防職員の特殊技能資格取得状況

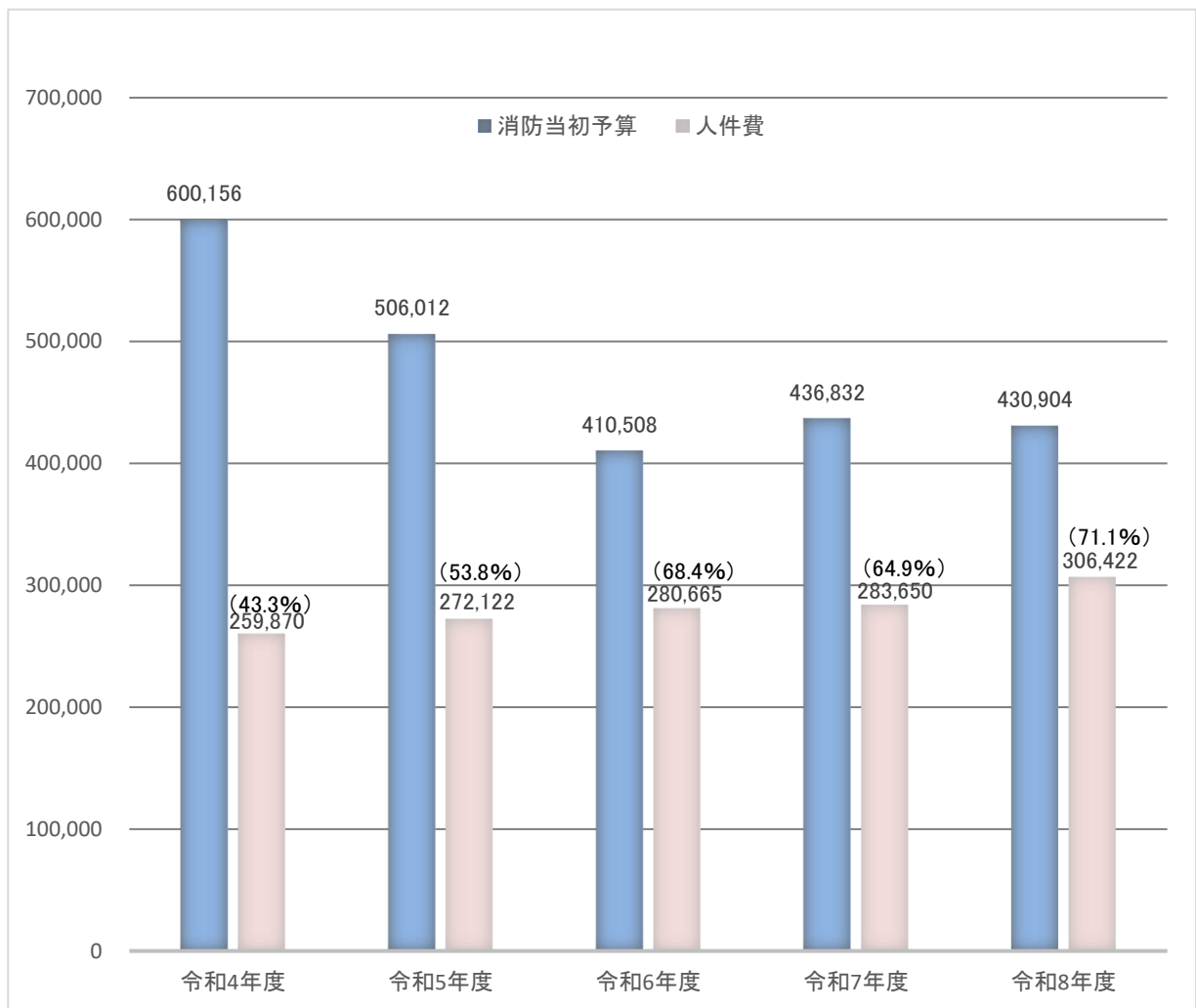
(令和8年4月1日現在)

資 格 種 別	人 数
大 型 自 動 車	27
大型特殊自動車	4
危険物取扱者(甲)	1
危険物取扱者(乙)	24
特殊無線技師	36
消防設備士(甲)	2
消防設備士(乙)	10

資 格 種 別	人 数
小型移動式クレーン	27
玉 掛 技 能 資 格	36
予 防 技 術 資 格 者 防 火 査 察	19
予 防 技 術 資 格 者 消 防 設 備 等	9
予 防 技 術 資 格 者 危 険 物	8
小型車両系建設機械	10

◇消防当初予算の推移

(単位:千円)



※ %(パーセンテージ)については、消防当初予算に対する人件費の割合を示しています。

◇消防当初予算と人口・世帯数との比較

(令和8年4月1日現在)

区分 年度	消防当初予算 (千円)	人口 (人)	人口1人当りの 消防予算 (円)	世帯数 (世帯)	1世帯当りの 消防予算 (円)
令和4年	600,156	25,021	23,986	9,496	63,200
令和5年	506,012	24,824	20,383	9,549	52,991
令和6年	410,508	24,499	16,756	9,585	42,828
令和7年	436,832	24,224	18,033	9,640	45,314
令和8年	430,904	23,932	18,005	9,659	44,611

◇令和8年度当初消防予算の概要

(単位:千円)

	常 備 消 防 費	非常備消防費	施 設 費	合 計
報 酬	1,402	19,406		20,808
給 料	148,071			148,071
職員手当等	106,599			106,599
共 済 費	52,561			52,561
災害補償費				0
報 償 費	166	240		406
旅 費	825	2,093		2,918
交 際 費	78	50		128
需 用 費	12,415	5,969	867	19,251
役 務 費	5,230	2,384	175	7,789
委 託 料	6,821		2,200	9,021
使用料及び 賃 借 料	1,376	381		1,757
工事請負費			800	800
備品購入費	6,434	4,168	12,500	23,102
負担金補助 及び交付金	25,663	9,367	2,200	37,230
公 課 費	148	290	25	463
合 計	367,789	44,348	18,767	430,904

◇一般会計との比較

(単位:千円)

年度 区 分	令和7年度					令和8年度
	当初予算額	補正予算額	継続費	予備費	最終予算額	当初予算額
町一般会計予算	13,740,000	2,307,409	1,781,181	0	17,828,590	13,696,000
消防予算額	436,832	26,919	0	0	463,751	430,904
一般会計予算との比					2.6%	3.1%

◇消防職員の勤務手当

(令和8年4月1日現在)

手 当 別	単 位	金 額
休日勤務手当	時間	$135/100 \times \text{実働時間}$
夜間勤務手当	1日	$25/100 \times 2\text{時間}$
火災・救助・支援 出動手当	1回	300円
救急出動手当	1回	200円 (救急救命士 400円)
当務者仮眠時間中 災害出動手当	時間	22:00～5:00まで $150/100 \times \text{実働時間}$
室堂救急隊分遣所 緊急出動手当	1日	2,000円

◇消防団員の報酬・手当

(令和8年4月1日現在)(単位:円)

階級 区分	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	機能別
年額報酬	82,500	69,000	52,000	45,500	37,500	37,000	36,500	18,000

区 分	種 別	金 額
出動報酬	災害(1日7時間45分以上の活動)	1日につき 8,000
	災害(1日7時間45分未満の活動)	1時間につき1,000
	警戒及び訓練等	1時間につき1,000
費用弁償	災害、警戒及び訓練等	1回につき 370

◇令和7年度中の活動内容

月	日	行 事
4	7 ~ 25	1 消防団任命書交付式 25 防火対象物立入検査 13 立山町女性防火クラブ総会 22 県消防防災ヘリコプター連携訓練
5	23 ~ 25	17 女性防火クラブ防火広報活動 24 消防団幹部県外研修 25 立山町消防団員研修
6	12 ~ 23	4 富山県下消防救助技術大会(第46回陸上の部) 7 女性消防団員連絡協議会総会 19 アルペンルート周辺 防火対象物立入検査 22 第57回立山町消防団消防操法大会 23 立山町消防交友会総会
7	7 ~ 25	10 消火栓調査 19 室堂救急隊分遣所開所 25 第53回東近畿消防救助技術指導会(京都市) 25 ~ 30 立山山岳地帯 防火対象物立入検査 26 第76回富山県下消防団消防操法大会
8	24 ~ 25	24 立山町消防団員防災研修会 25 弥陀ヶ原火山防災訓練
9	26 ~ 28	26 緊急消防援助隊出動訓練 28 緊急消防援助隊訓練(南砺市)
10	13 ~ 30	13 室堂救急隊分遣所閉所 14 富山県下警防技術交換会 16 建築パトロール 19 立山町消防団秋季消防操法大会 24 緊急消防援助隊後方支援隊訓練 25 立山町防災訓練 25 立山町女性防火クラブ視察研修 30 緊急消防援助隊受援訓練
11	4 ~ 28	4 ~ 18 防火対象物立入検査 5 富山県下救急隊員研修会 9 ~ 15 秋の火災予防運動 12 幼年消防防災教室 13 1日消防士体験 13 防火パレード 15 ~ 16 緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練 19 富山県下消防職員意見発表会 28 東近畿支部予防業務研究会
12	1 ~ 28	1 ~ 2 危険物施設立入検査 3 ~ 10 消火栓調査 12 鉄道火災訓練 21 ~ 27 歳末消防通常警戒 28 幹部巡視 28 ~ 31 歳末消防特別警戒
1	12 ~ 25	12 消防出初め式 25 (文化財防火デーに伴う)雄山神社防災訓練 ※大雪のため中止
2	2 ~ 16	防火対象物立入検査
3	10 ~ 23	10 総務大臣地域貢献表彰式(東京都) 12 警防調査 14 富山県消防定例表彰式 20 ~ 26 春の火災予防運動 23 火災防御訓練(大森地区)

消防警防



◇消防機械配置状況

(令和8年4月1日現在)

車 種 別 所 属 別		ポ ン プ 車		救 急 車 及 び そ の 他 の 車						
		普 通 消 防 ポ ン プ 自 動 車	化 学 消 防 ポ ン プ 自 動 車 (災 害 対 応)	救 急 車 (高 規 格)	救 助 工 作 車 (Ⅱ 型)	指 令 車	現 場 指 揮 車	広 報 車	小 型 動 力 ポ ン プ 付 積 載 車 (千 寿 ヶ 原 地 区 へ 貸 与)	資 機 材 搬 送 車
常 備	消防本部・署	2	1	3	1	1	1	2	1	1
小 計		2	1	3	1	1	1	2	1	1
消 防 団	五百石分団	1								
	高野分団	1								
	下段分団	1								
	大森分団	1								
	利田分団	1								
	上段分団	2								
	東谷分団	1							1	
	立山分団	1							2	
	釜ヶ淵分団	1								
	新川分団	1							1	
小 計		11							4	
合 計		13	1	3	1	1	1	2	5	1

◇消防車両一覧表

(令和8年4月1日現在)

項目 車 両	車 両 メーカ	登 録 年 月 日	機装、種別、級別等	配置場所
ポンプ車	日 野	H 25. 12. 9	モリタ A-2 600ℓ水槽	消 防 本 部 (消 防 署)
ポンプ車	日 野	R 3. 2. 12	モリタ A-2 900ℓ水槽 MVF	
化学車	三 菱 ふ そ う	H 15. 12. 3	モリタ A-2 1700ℓ水槽	
救助工作車	日 野	R 5. 12. 12	Ⅱ 型	
救 急 車	ト ヨ タ	R 7. 12. 3	高規格	
救 急 車	ト ヨ タ	R 1. 11. 19	高規格	
救 急 車	ト ヨ タ	H 25. 11. 20	高規格	
指 令 車	日 産	H 25. 11. 14	ステーションワゴン	
広 報 車	日 産	H 23. 12. 16	ステーションワゴン	
広 報 車	日 産	H 28. 12. 1	ミニバン(非緊急車両)	
現 場 指 揮 車	日 産	R 4. 1. 24	1BOX	
資 機 材 搬 送 車	日 野	H 29. 1. 31	2tトラック	
千寿ヶ原積載車	ダ イ ハ ツ	H 13. 12. 17	千寿ヶ原地区に貸与	本部管理
五百石分団車	日 野	R 1. 10. 16	モリタ A-2	五 百 石
立 山 分 団 車	い す ゞ	H 30. 11. 12	モリタ A-2	立 山
下 段 分 団 車	日 野	H 28. 11. 18	モリタ A-2	下 段
高 野 分 団 車	い す ゞ	H 27. 9. 28	モリタ A-2	高 野
大 森 分 団 車	日 野	H 26. 9. 12	モリタ A-2	大 森
東 谷 分 団 車	日 野	H 25. 10. 21	モリタ A-2	東 谷
釜ヶ淵分団車	い す ゞ	H 24. 11. 19	モリタ A-2	釜 ヶ 淵
上 段 分 団 車	い す ゞ	H 23. 11. 21	モリタ A-2	上 段
利 田 分 団 車	日 野	H 23. 2. 10	モリタ A-2	利 田
新 川 分 団 車	日 野	H 22. 2. 12	モリタ A-2	新 川
新瀬戸ポンプ車	い す ゞ	R 2. 2. 3	モリタ 救助資機材搭載型 国無償貸与車両	上 段 新 瀬 戸
目 桑 積 載 車	ス ズ キ	H 26. 11. 19	可搬式ポンプ積載車	目 桑
女 川 新 積 載 車	ダ イ ハ ツ	H 15. 12. 17	可搬式ポンプ積載車	女 川 新
千 垣 積 載 車	ダ イ ハ ツ	R 6. 3. 15	可搬式ポンプ積載車	千 垣
芦 峯 積 載 車	い す ゞ	H 22. 7. 22	シパウラ 救助資機材搭載型 国無償貸与車両	芦 峯

◇消防水利の現況

(令和8年4月1日現在)

現 有 消 防 水 利									
種別 地区	消 火 栓			防 火 水 槽				プ ー ル	計
	公 設		私 設	公 設		私 設			
	地 上 式	地 下 式		有蓋	無蓋	有蓋	無蓋		
五 百 石		109	1	8				1	119
高 野		63		2			1		67
下 段		71		5					76
大 森		56		8					64
利 田		64	1	2			3		71
上 段	2	43		7			2		54
東 谷	1	25		7	8				41
立 山	39	88		6	4		1		138
釜 ケ 淵	1	28		3				1	33
新 川		83	5	4	1		1		95
計	43	630	7	52	13	8		5	758
				65		8			

通信指令



消 防 無 線 局 一 覧

◇電波の型式

活動波

(1)活動波1ch

(2)活動波2ch

共通波

(3)統制波1ch

(4)統制波2ch

(5)統制波3ch

(6)主運用波1ch(他県)

(7)主運用波2ch(他県)

(8)主運用波3ch(他県)

(9)主運用波4ch(他県)

(10)主運用波5ch(富山県波)

(11)主運用波6ch(他県)

(12)主運用波7ch(他県)

◇無線局数

(令和8年4月1日現在)

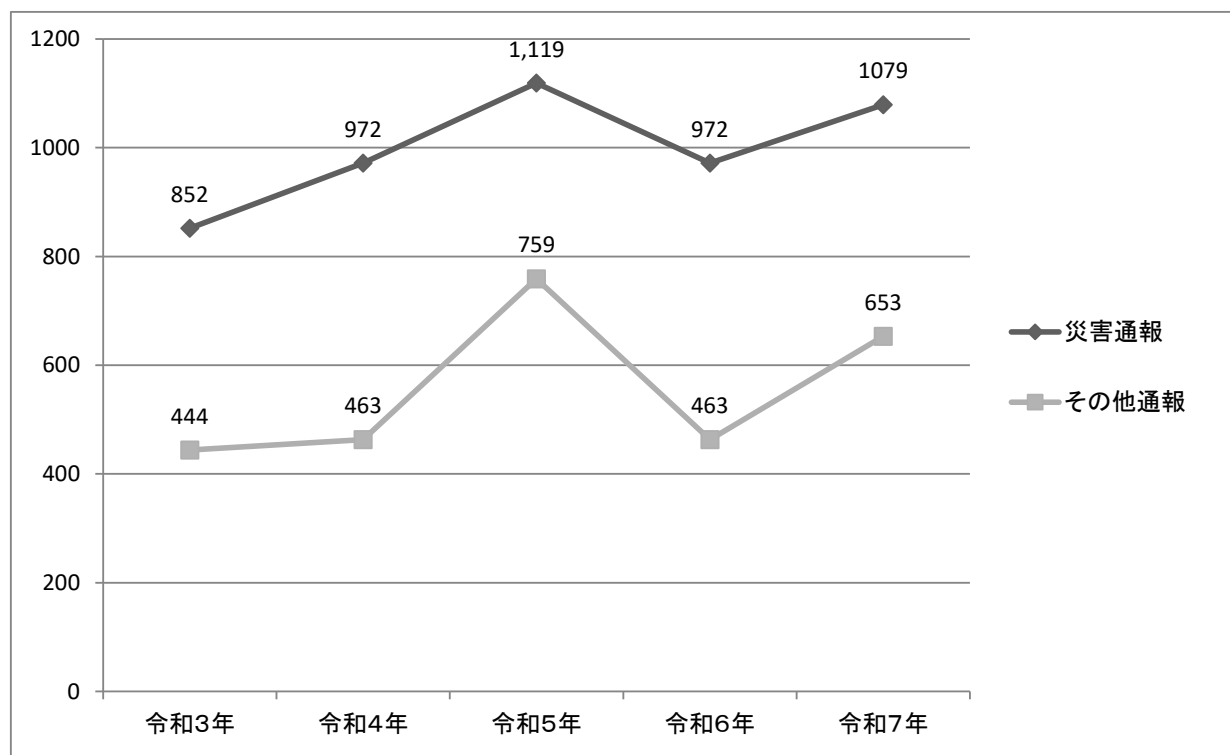
	デジタル無線						アナログ無線			
局種別	基地局		陸上移動局				陸上移動局			
	本部	芦峯中継	車載(本部)	車載(分団)	可搬	携帯	署活動系無線	防災相互波	山岳遭難対策用無線	
									本部	携帯
空中線電力	10W	20W	10W	10W	5W	2W	1W	10W	5W	1W
局数	1	1	12	10	2	20	10	12	1	2
合計	2		44				25			

※消防救急デジタル無線は、緊急消防援助隊等の活動時に他県で使用している主運用波も使用できるように整備することと消防庁から指示があり、移動局(車載、可搬、携帯)には全て実装しています。

◇年別119番通報受信状況

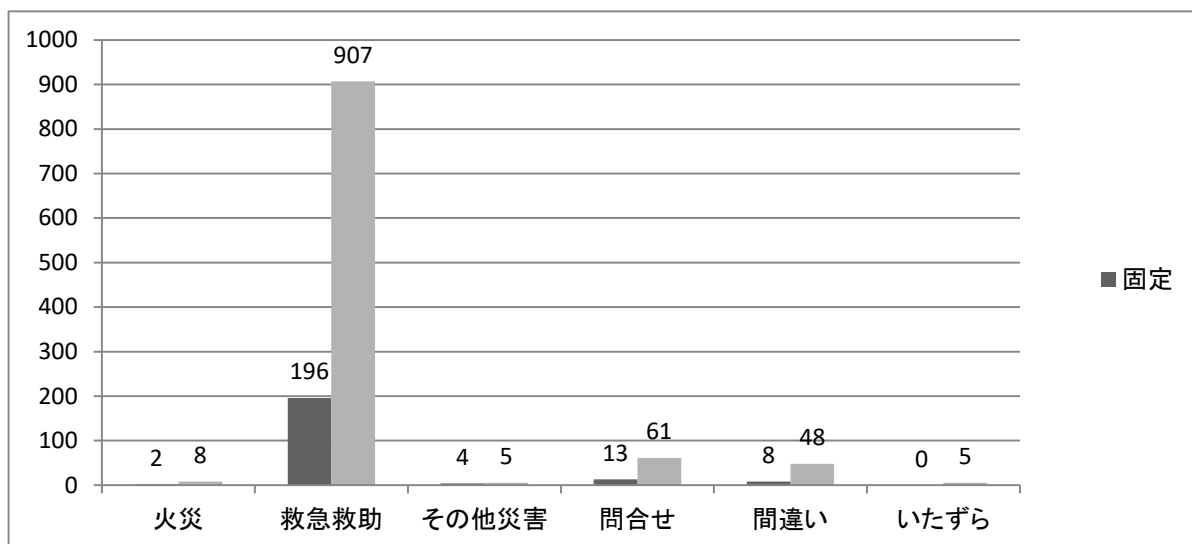
		令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	計
災害通報	火災通報	8	4	4	4	5	25
	救急救助通報	840	963	1,088	963	1,058	4,912
	その他災害通報	4	5	27	5	16	57
災害通報小計		852	972	1,119	972	1,079	4,994
その他の通報	訓練	162	185	131	185	194	857
	試験	178	154	294	154	115	895
	いたずら	2	6	1	6	1	16
	間違い	43	46	140	46	114	389
	問合わせ	59	72	68	72	100	371
	その他			125		129	254
その他の通報小計		444	463	759	463	653	2,782
合計		1,296	1,435	1,878	1,435	1,732	7,776

※「その他災害通報」は、火災・救急救助以外の災害通報となります。



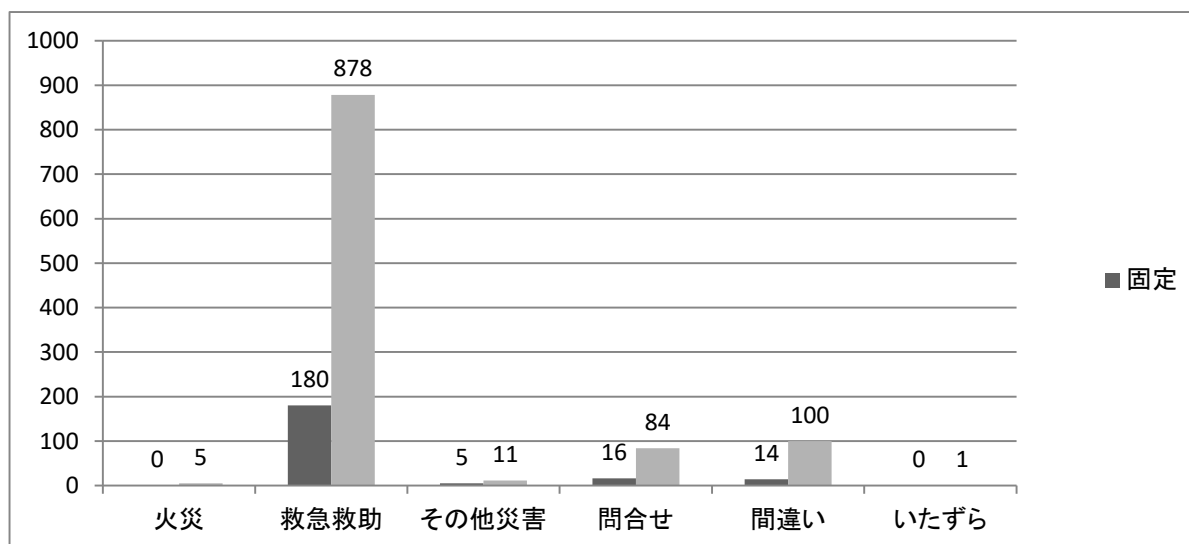
◇受信方法別の受信状況

(令和6年)



	火災	救急救助	その他災害	問合せ	間違い	いたずら	合計
固定	2	196	4	13	8	0	223
携帯 IP電話等	8	907	5	61	48	5	1034

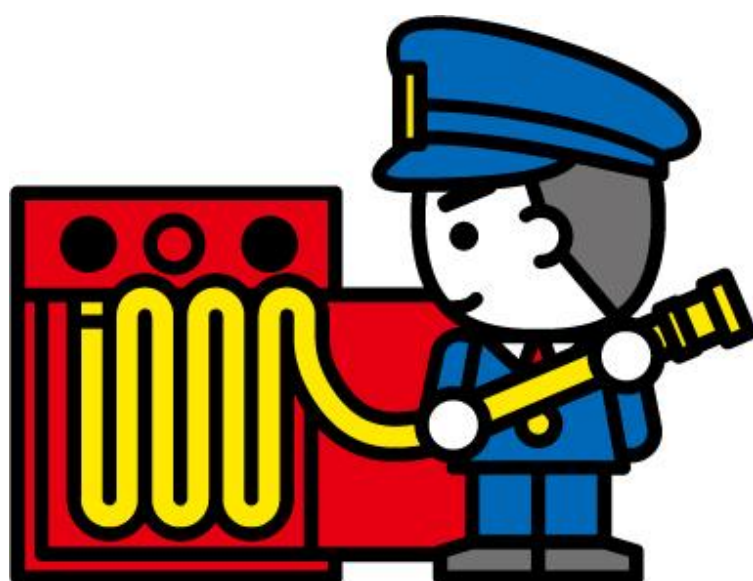
(令和7年)



	火災	救急救助	その他災害	問合せ	間違い	いたずら	合計
固定	0	180	5	16	14	0	215
携帯 IP電話等	5	878	11	84	100	1	1079

※「試験」「訓練」「その他」を除きます。

予 防・安 全



◇防火対象物状況

(令和7年度中)

用 途 別		消防用設備等 必要対象物	防火管理者 必要対象物
(1)	イ 劇場、映画館、演芸場又は観覧場		
	ロ 公会堂又は集会場	16	14
(2)	イ キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等		
	ロ 遊技場又はダンスホール	1	1
	ハ 性風俗関連特殊営業を営む店舗等		
	ニ カラオケボックス等		
(3)	イ 待合、料理店等	2	
	ロ 飲食店	35	12
(4)	百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗又は展示場	37	15
(5)	イ 旅館、ホテル、宿泊所等	43	28
	ロ 寄宿舍、下宿又は共同住宅	36	4
(6)	イ 病院、診療所、助産所	5	1
	ロ 特別養護老人ホーム、救護施設、老人短期入所施設 乳児院、障害児入所施設、介護老人保健施設等 障害者支援施設等	17	13
	ハ 老人デイサービスセンター、更生施設、軽費老人ホーム 老人福祉センター、保育所、児童養護施設等、身体障害者福祉 センター	25	15
	ニ 幼稚園又は特別支援学校		
(7)	小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校等	15	10
(8)	図書館、博物館、美術館等	6	4
(9)	イ 公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	1	1
	ロ イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場		
(10)	車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場	5	5
(11)	神社、寺院、教会等	9	1
(12)	イ 工場又は作業場	201	16
	ロ 映画スタジオ又はテレビスタジオ		
(13)	イ 自動車車庫又は駐車場	15	0
	ロ 飛行機又は回転翼航空機の格納庫		
(14)	倉庫	100	1
(15)	前各項に該当しない事業場	115	22
(16)	イ 特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	24	29
	ロ 上記以外の複合用途防火対象物	6	3
(16の2)	地下街		
(16の3)	地階で連続して設けられた地下道に面して設けられたものと 地下道とを合わせた物		
(17)	重要文化財、重要美術品建造物等	5	1
(18)	延長≥50mのアーケード		
(19)	市町村長が指定する山林		
(20)	総務省令(規5-10)で定める舟車		
計		719	196

◇立入検査実施状況

(令和7年度中)

用 途 別			実施件数	改善指示 件数	改善計画 提出件数
(1)	イ	劇場、映画館、演芸場又は観覧場			
	ロ	公会堂又は集会場	13	5	4
(2)	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブの類			
	ロ	遊技場又はダンスホール			
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等			
	ニ	カラオケボックス等			
(3)	イ	待合、料理店等	1	1	1
	ロ	飲食店	16	8	5
(4)		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗又は 展示場	15	2	1
(5)	イ	旅館、ホテル、宿泊所等	30	11	5
	ロ	寄宿舍、下宿又は共同住宅	9	2	1
(6)	イ	病院、診療所又は助産所	1	0	0
	ロ	特別養護老人ホーム、救護施設、老人短期入所施設 乳児院、障害児入所施設、介護老人保健施設等 障害者支援施設等	9	3	2
	ハ	老人デイサービスセンター、更生施設、軽費老人ホーム 老人福祉センター、保育所、児童養護施設等、身体障害者福祉セ ンター	15	1	1
	ニ	幼稚園、特別支援学校			
(7)		小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校等	9	3	1
(8)		図書館、博物館、美術館の類	3	0	0
(9)	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	1	0	0
	ロ	イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場			
(10)		車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場	5	0	0
(11)		神社、寺院、教会等	6	4	3
(12)	イ	工場又は作業場	57	9	6
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ			
(13)	イ	自動車車庫又は駐車場	2	0	0
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫			
(14)		倉庫	13	5	3
(15)		前各項に該当しない事業場	35	14	11
(16)	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	18	12	8
	ロ	上記以外の複合用途防火対象物	3	0	0
(16の2)		地下街			
(16の3)		地階で連続して設けられた地下道に面して設けられたもの と地下道とを合わせた物			
(17)		重要文化財、重要美術品建造物等	1	0	0
(18)		延長≧50mのアーケード			
(19)		市町村長が指定する山林			
(20)		総務省令(規5-10)で定める舟車			
計			262	80	52

※実施件数1件で、複数の改善指示件数を把握しているものも計上しています。

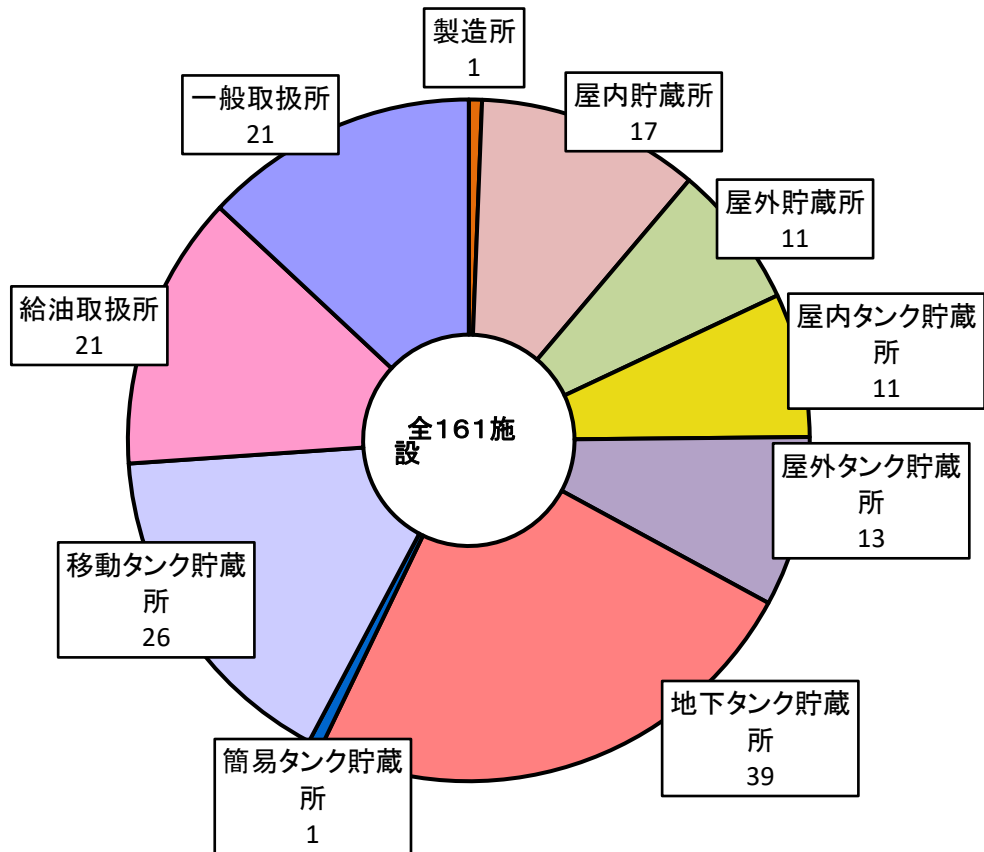
◇用途別建築同意状況

(令和7年度中)

用 途 別		
(1)	イ	劇場、映画館、演芸場又は観覧場
	ロ	公会堂又は集会場
(2)	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等
	ロ	遊技場又はダンスホール
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等
	ニ	カラオケボックス等
(3)	イ	待合、料理店等
	ロ	飲食店
(4)		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗又は展示場
(5)	イ	旅館、ホテル、宿泊所等
	ロ	寄宿舍、下宿又は共同住宅
(6)	イ	病院、診療所、助産所
	ロ	特別養護老人ホーム、救護施設、老人短期入所施設 乳児院、障害児入所施設、介護老人保健施設等 障害者支援施設等
	ハ	老人デイサービスセンター、更生施設、軽費老人ホーム 老人福祉センター、保育所、児童養護施設等、身体障害者福祉センター
	ニ	幼稚園又は特別支援学校
(7)		小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校等
(8)		図書館、博物館、美術館等
(9)	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場
	ロ	イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場
(10)		車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場
(11)		神社、寺院、教会等
(12)	イ	工場又は作業場
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ
(13)	イ	自動車車庫又は駐車場
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫
(14)		倉庫
(15)		前各項に該当しない事業場
(16)	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物
	ロ	上記以外の複合用途防火対象物
(16の2)		地下街
(16の3)		地階で連続して設けられた地下道に面して設けられたものと 地下道とを合わせた物
(17)		重要文化財、重要美術品建造物等
(18)		延長≧50mのアーケード
(19)		市町村長が指定する山林
(20)		総務省令(規5-10)で定める舟車
		専用住宅(車庫含む)
		その他
計		29

(令和7年度中)

◇危険物許可施設数



◇火災予防条例による届出状況

種別 年度	発電設備	変電設備	蓄電設備	炉	厨房設備	温風暖房機	ボイラ	給湯湯沸設備	乾燥設備	サウナ設備	少量危険物	指定可燃物
令和3年度	3	10	6	3	0	0	2	1	0	1	11	2
令和4年度	0	3	2	0	0	0	3	4	0	2	3	0
令和5年度	0	13	0	0	0	1	4	0	0	0	0	1
令和6年度	6	5	2	0	0	0	6	1	1	0	8	0
令和7年度	9	3	4	1	0	0	1	0	0	1	5	4

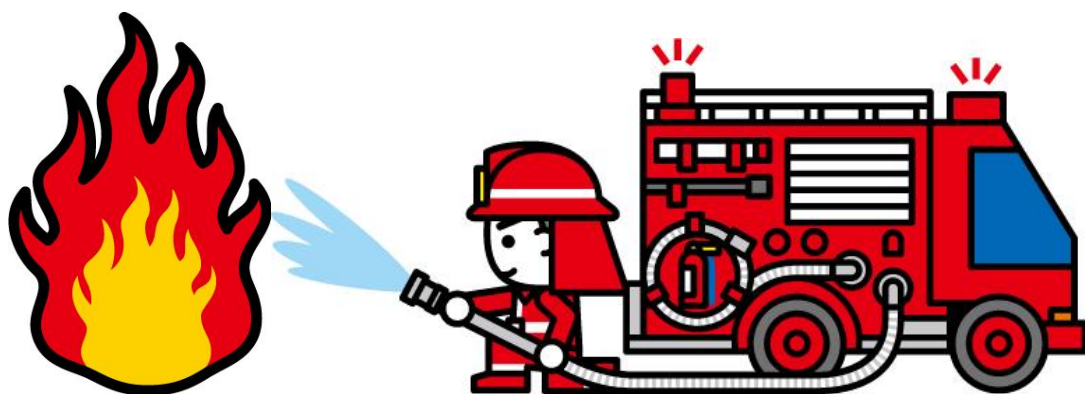
◇危険物許可施設(倍数別・類別状況)

(令和7年度中)

製造所等の別		製造所	貯 蔵 所								取 扱 所				合 計
			屋 内	屋 外	屋 内 タ ン ク	屋 外 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	小 計	給 油	販 売	一 般	小 計	
倍 数 別	5倍以下		6	6	2	4	24	1	24	67	4		9	13	80
	5倍を超え 10倍 以下		4		6	2	7			19	1		9	10	29
	10倍を超え 50倍 以下	1	6	5	3	3	7		1	25	5		3	8	34
	50倍を超え 100倍 以下		1			4	1		1	7	3			3	10
	100倍を超え 150倍 以下										4			4	4
	150倍を超え 200倍 以下														
	200倍を超え 1000倍 以下										4			4	4
	1000倍を超えるもの														
	合 計	1	17	11	11	13	39	1	26	118	21	0	21	42	161
類 別	第 1 類														
	第 2 類														
	第 3 類														
	第 4 類		14	11	11	13	39	1	24	113	21		20	41	154
	第 5 類		1							1					1
	第 6 類								2	2					2
	混 在	1	2							2			1	1	4
	合 計	1	17	11	11	13	39	1	26	118	21	0	21	42	161

※危険物許可施設は「設置許可書」を交付した施設を計上する。

火災



火 災 概 況

令和7年における火災発生件数は6件で、前年より3件増となりました。
火災種別は、建物火災が4件、その他火災が2件であり、損害額合計は579千円で、前年に比べ222,707千円の減少となっています。焼損面積は21㎡、焼損表面積は2㎡となっています。火災による負傷者は1名、死者は0名でした。

◇火災発生状況総括表

件 数		1	2	3	4	5	6
区 分							
火 災 種 別		建物	建物	その他	建物	建物	その他
出 火 月 日		4月5日	7月28日	8月14日	9月6日	9月14日	11月17日
出 火 時 刻 (推 定)		9時30分	9時00分	18時20分	11時10分	14時10分	15時00分
天 候		曇	快晴	晴	晴	雨	曇
湿 度(%)		58.8	55.5	61.1	62.2	—	78
風 向		北北東	北東	西	北北西	南	西北西
風 速(m/s)		1.6	3.4	1.9	1.4	5	6.8
気 温(℃)		8.3	31.8	30.4	27.1	11.1	15.9
出 火 地 区		下段	大森	利田	大森	立山	大森
出 火 原 因 (推定含む)		リチウムイオン蓄電池内部短絡による異常発熱	ゴミ焼却火が燃え移ったもの	枯草等の焼却火が燃え移ったもの	経年劣化による絶縁低下	経年劣化による断線	枯木焼却の燃え残りが再燃
焼損面積(㎡)		1㎡(表)	21㎡			1㎡(表)	
焼 損 棟 数	全 焼						
	半 焼		1				
	部 分 焼						
	ぼ や	1			1	1	
	計	1	1		1	1	
罹 災 世 帯 数	全 損						
	半 損						
	小 損	1					
罹 災 人 員		5					
死 傷 者	死 者						
	負 傷 者	1					
損 害 額 (千 円)	建 物	8	152			22	
	収 容 物	14	23		1	5	250
	そ の 他			89			15
	計	22	175	89	1	27	265
住宅用火災警報器 設 置 状 況		有					

◇月別火災発生状況

内 訳 月 別	出 火 件 数					焼 損 棟 数					焼損面積		損害額 (千円)
	計	建 物	林 野	車 両	そ の 他	計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	建物 (㎡)	林野 (a)	
1													
2													
3													
4	1	1				1				1			22
5													
6													
7	1	1				1		1			21		175
8	1				1								89
9	2	2				2				2			28
10													
11	1				1								265
12													
合 計	6	4	0	0	2	4	0	1	0	3	21	0	579

◇過去10年間の地区別件数

年 地 区	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	合 計
五百石			1			1	1		2		5
高 野			1		1		1				3
上 段	1										1
東 谷						1					1
立 山	2	4	1	1	1	2	1	2		1	15
釜ヶ淵		3				1					4
下 段		1	1							1	3
大 森	1									3	4
利 田		2	1		2	1				1	7
新 川					2		1		1		4
合 計	4	10	5	1	6	6	4	2	3	6	47

◇気象別火災発生状況

天 候	件 数
晴	3
曇	2
雨	1
雪	
不明	
合 計	6

湿 度(%)	件 数
0～19	
20～29	
30～39	
40～49	
50～59	2
60～69	2
70～79	1
80～89	
90～	
不 明	1
合 計	6

風速(m/s)	件 数
0.0～ 1.9	3
2.0～ 3.9	1
4.0～ 5.9	1
6.0～ 7.9	1
8.0～ 9.9	
10.0～11.9	
12.0～13.9	
14.0～	
合 計	6

◇火元建物用途別の火災状況

用途別 \ 損害状況	出 火 件 数 (件)	焼 損 面 積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損 害 額 (千円)
建 物	4	21	2	182
車 両				
そ の 他	2			397
合 計	6	21	2	579

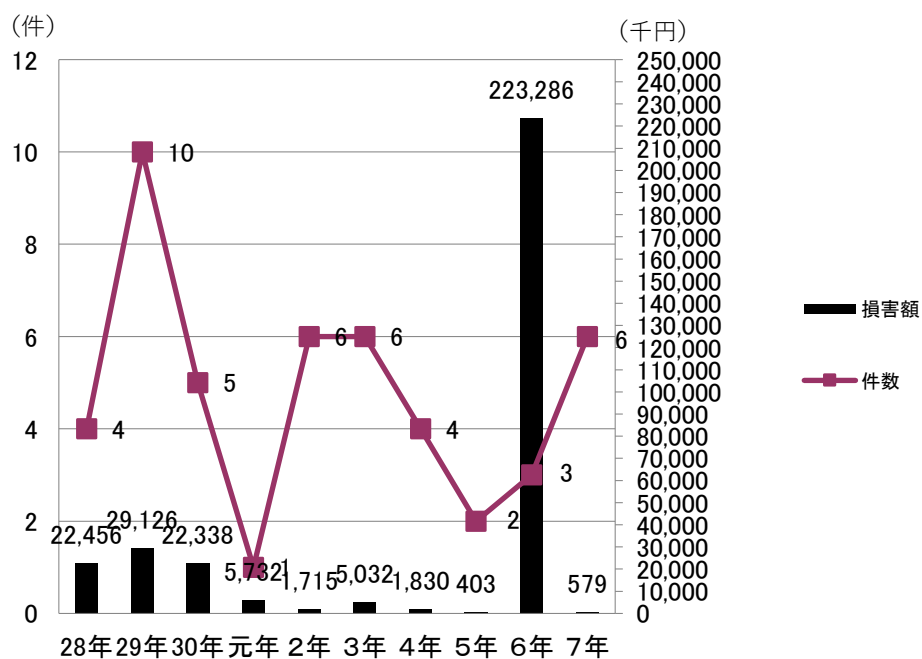
◇出火時刻別火災発生状況

区分 時刻	出 火 件 数					焼 損 棟 数					焼 損 面 積			死傷者		損 害 額 (千円)
	計	建 物	林 野	車 両	そ の 他	計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	建 物 (㎡)		林野 (a)	焼 死 者	傷 者	
											床面積	表面積				
0～ 1																
1～ 2																
2～ 3																
3～ 4																
4～ 5																
5～ 6																
6～ 7																
7～ 8																
8～ 9																
9～10	2	2				2		1		1	21	1			1	197
10～11																
11～12	1	1				1				1						1
12～13																
13～14																
14～15	1	1				1				1		1				27
15～16	1				1											265
16～17																
17～18																
18～19	1				1											89
19～20																
20～21																
21～22																
22～23																
23～24																
合 計	6	4	0	0	2	4	0	1	0	3	21	2	0	0	2	579

◇過去10年間の火災発生状況

区分 年	件数	焼 損 面 積				損 害 額(千円)
		建 物(㎡)	表面積(㎡)	林野(a)	車両等	
平成 28	4	801		41		22,456
平成 29	10	334	38		3台	29,126
平成 30	5	780	4			22,338
令和 元	1	214	2			5,732
令和 2	6	0.49	0.36		4台	1,715
令和 3	6	162	25	64	1台	5,032
令和 4	4				1台	1,830
令和 5	2					403
令和 6	3	895	1		1台	223,286
令和 7	6	21	2			579
平均	4.7					

◇過去10年間の火災発生件数と損害額



◇過去10年間の原因別出火件数

原因別 \ 年別	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	合計
たばこ	1			1	1						3
ガス燃焼機器						1					1
ストーブ			1			1					2
ボイラー	1										1
ライター		1								1	2
飛び火					1	1					2
取扱い不注意(危険物)		1									1
電気機器類		1					1			2	4
電灯電気等の配線		1					1			1	3
野火	1					1			1	2	5
スプレー缶爆発											0
車両機関内配線		2									2
車両衝突		1			1						2
車両の故障					1		1				2
放火(疑い含む)			2		1						3
不明・調査中		2				1		1	2		6
自然発火											0
焼身自殺	1										1
機器取扱不注意		1			1						2
落雷			1					1			2
製造機器											0
乾燥機							1				1
火気取り扱い不注意			1								1
その他						1					1
合計	4	10	5	1	6	6	4	2	3	6	47

※出火原因については推定を含む。

救急・救助



救 急 概 況

令和7年中の救急出動件数(立山黒部アルペンルート、北陸自動車道を含む)は、1,292件で前年比10件減少、搬送人員は、1,168人で前年比22人減少となりました。

事故種別では、急病事故851件(65.8%)、一般負傷事故239件(18.4%)、転院搬送88件(6.8%)交通事故57件(4.4%)となりました。

立山黒部アルペンルートの出動件数は、101件で前年比31件増加となりました。

北陸自動車道の出動件数は、1件で前年と同数になりました。

○事故種別出動件数・搬送人員状況

単位: 上段 : 件
下段 : 人

事故種別 区 分	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行為	急 病	そ の 他				計
											転 院	医 師	資 機 材	そ の 他	
出 動 件 数	0	0	4	57	23	5	239	1	11	851	88	0	0	13	1,292
搬 送 人 員	0	0	3	51	23	4	211	1	8	789	78	0	0	0	1,168

○月別・事故種別救急活動状況

単位：上段：件
下段：人

事故種別 月 別		火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計
												転 院	医 師	資 機 材	そ の 他	
1	出動件数				2	2		18	1	2	91	6			5	127
	搬送人員				1	2		18	1	1	88	6				117
2	出動件数				7	1		16		1	64	2			1	92
	搬送人員				8	1		16		1	59	2				87
3	出動件数			2	6	1		7		1	70	4			2	93
	搬送人員			2	7	1		7		1	65	4				87
4	出動件数				2	2		20		1	65	3			1	94
	搬送人員				2	2		15		1	62	3				85
5	出動件数				7	3		18		1	63	6			2	100
	搬送人員				7	3		17		1	60	6				94
6	出動件数			1	5	6	1	21		1	62	4				101
	搬送人員				3	6	1	20		1	58	4				93
7	出動件数			1	10	3		16			65	17				112
	搬送人員			1	8	3		14			56	14				96
8	出動件数				4	1	2	19		1	86	20				133
	搬送人員				3	1	1	15			79	13				112
9	出動件数				2	1	2	31		1	78	7			1	123
	搬送人員				2	1	2	28			73	7				113
10	出動件数				3			29		1	68	6				107
	搬送人員				3			24		1	67	6				101
11	出動件数				2	2		25			64	7			1	101
	搬送人員				1	2		20			54	7				84
12	出動件数				7	1		19		1	75	6				109
	搬送人員				6	1		17		1	68	6				99
計	出動件数	0	0	4	57	23	5	239	1	11	851	88	0	0	13	1,292
	搬送人員	0	0	3	51	23	4	211	1	8	789	78	0	0	0	1,168

○時間別・事故種別救急活動状況

単位：上段：件
下段：人

事故種別 時間別		火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損行為	急 病	そ の 他				計
												転 院	医 師	資 機材	そ の 他	
0～2	出動件数				1			4			36					41
	搬送人員							3			36					39
2～4	出動件数				2	1		4			25					32
	搬送人員				1	1		4			24					30
4～6	出動件数			1	4		1	2		2	43				1	54
	搬送人員			1	4		1	2		2	40					50
6～8	出動件数				6	3		15		2	72				2	100
	搬送人員				4	3		14			66					87
8～10	出動件数			1	4	2		35			114	10			2	168
	搬送人員				3	2		28			104	10				147
10～12	出動件数			2	2	7		37	1	1	108	16			2	176
	搬送人員			2	3	7		36	1	1	97	16				163
12～14	出動件数				7	2	1	33			93	19			2	157
	搬送人員				7	2	1	29			86	15				140
14～16	出動件数				7	3	1	34		2	73	17				137
	搬送人員				7	3	1	29		2	71	16				129
16～18	出動件数				12	5	1	30			95	15			2	160
	搬送人員				12	5		26			89	13				145
18～20	出動件数				11		1	23		2	94	8			2	141
	搬送人員				9		1	21		1	85	6				123
20～22	出動件数				1			15		1	61	3				81
	搬送人員				1			13		1	57	2				74
22～24	出動件数							7		1	37					45
	搬送人員							6		1	34					41
計	出動件数	0	0	4	57	23	5	239	1	11	851	88	0	0	13	1,292
	搬送人員	0	0	3	51	23	4	211	1	8	789	78	0	0	0	1,168

○曜日別・事故種別救急活動状況

単位：上段：件
下段：人

事故種別 曜日別		火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計
												転 院	医 師	資 機 材	そ の 他	
月	出動件数				12	3	1	40		2	150	13				221
	搬送人員				11	3	1	34		1	146	13				209
火	出動件数				11	5		24		1	112	23			2	178
	搬送人員				13	5		23		1	96	20				158
水	出動件数				7	4		38	1	1	107	16			2	176
	搬送人員				5	4		33	1	1	102	14				160
木	出動件数			1	6	6		33		2	126	10			3	187
	搬送人員			1	4	6		28		2	116	9				166
金	出動件数			1	8	3		34		2	106	15			1	170
	搬送人員				7	3		29		2	97	12				150
土	出動件数			2	8	1	3	40		2	118	8			4	186
	搬送人員			2	7	1	2	35		1	111	8				167
日	出動件数				5	1	1	30		1	132	3			1	174
	搬送人員				4	1	1	29			121	2				158
計	出動件数	0	0	4	57	23	5	239	1	11	851	88	0	0	13	1,292
	搬送人員	0	0	3	51	23	4	211	1	8	789	78	0	0	0	1,168

○現場到着所要時間・事故種別出動件数

(単位:件)

事故種別 所要時間	急 病	交 通	一 般 負 傷	そ の 他	計
3 分 未 満	28		9	14	51
3 分 ～ 5 分 未 満	87	1	28	36	152
5 分 ～ 10 分 未 満	475	34	108	59	676
10 分 ～ 20 分 未 満	222	19	57	22	320
20 分 以 上	39	3	37	14	93
計	851	57	239	145	1,292
平 均 時 間 (分)	9.9	10.0	13.4	10.1	10.0

※「現場到着所要時間」とは、入電から現場到着した時間を表します。

○医療機関等収容所要時間・事故種別搬送人員

(単位:人)

事故種別 所要時間	急 病	交 通	一 般 負 傷	そ の 他	計
10分未満					0
うち管外					0
10分以上20分未満	12		1		13
うち管外	3		1		4
20分以上30分未満	98	4	22	28	152
うち管外	79	2	16	28	125
30分以上60分未満	621	41	148	72	882
うち管外	607	37	143	69	856
60分以上120分未満	47	6	35	12	100
うち管外	45	6	33	12	96
120分以上	11		5	5	21
うち管外	11		5	4	20
計	789	51	211	117	1,168
うち管外	745	45	198	113	1,101
平 均 時 間 (分)	41.9	42.9	48.8	44.4	41.9

※ この表中の「管外」とは、収容医療機関が立山町以外の病院へ搬送したことを表します。

※「医療機関等収容所要時間」とは、入電から医療機関へ収容した時間または、ヘリポートまで搬送した時間を表します。

○年齢区分別・傷病程度別搬送人員

単位：人

事故種別 区分	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行為	急 病	そ の 他	計
新生児												0
乳幼児							11			24	2	37
少年				2		1	6	1	2	10	1	23
成人				30	16	3	44		4	194	19	310
高齢者			3	19	7		150		2	561	56	798
計	0	0	3	51	23	4	211	1	8	789	78	1,168
死亡							1			7		8
重症			1	1	1		3		2	37		45
中等症			2	9	11	1	108		3	404	69	607
軽症				41	11	3	99	1	3	341	9	508
その他												0

新生児…生後28日未満の者

乳幼児…生後28日以上満7歳未満の者

少年…満7歳以上満18歳未満の者

成人…満18歳以上満65歳未満の者

高齢者…満65歳以上の者

死亡…初診時において、死亡が確認されたもの

重症…傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症…傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽症…傷病の程度が入院を必要としないもの

その他…医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの
(消防防災ヘリでの搬送含む)

○居住地別・事故種別搬送人員

単位：人

事故種別 区分	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行為	急 病	そ の 他	計
管内			3	32	8	1	149	1	7	696	54	951
管外				19	15	3	62		1	93	24	217
計	0	0	3	51	23	4	211	1	8	789	78	1,168

* 管内…立山町に住所を有する者

* 管外…立山町以外に住所を有する者

○収容医療機関別搬送人員

単位：人

事故種別 医療機関別		急 病		交 通		一般負傷		そ の 他		計	
		うち 管外		うち 管外		うち 管外		うち 管外		うち 管外	
救急告示医療機関	国 立	14	14	3	3	6	6	4	4	27	27
	公 立	482	481	28	28	134	132	88	87	732	728
	公 的	232	232	13	13	51	51	20	20	316	316
	私 病 院	51	10	7	1	16	6	4	1	78	18
	的 診療所									0	0
	小 計	779	737	51	45	207	195	116	112	1,153	1,089
その他の医療機関	国 立									0	0
	公 立	2	1							2	1
	公 的	5	5			3	3	1	1	9	9
	私 病 院	1	1							1	1
	的 診療所	2	1							2	1
	小 計	10	8	0	0	3	3	1	1	14	12
のそ 場の 所他	接骨院等									0	0
	そ の 他					1				1	0
	小 計					1				1	0
合 計	国 立	14	14	3	3	6	6	4	4	27	27
	公 立	484	482	28	28	134	132	88	87	734	729
	公 的	237	237	13	13	54	54	21	21	325	325
	私 病 院	52	11	7	1	16	6	4	1	79	19
	的 診療所	2	1							2	1
	そ の 他					1				1	0
合 計		789	745	51	45	211	198	117	113	1,168	1,101

○過去10年間の救急状況

単位：上段：件
下段：人

区 分	年									
	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7
出 動 件 数	1,162	1,129	1,177	1,039	1,030	1,055	1,184	1,324	1,302	1,292
搬 送 人 員	1,076	1,050	1,092	938	959	980	1,100	1,231	1,190	1,168

救急隊が行なった救命処置の状況

○心肺停止傷病者に対する救命処置の状況

単位：件

事故種別 処置項目	急病	一般負傷	交通事故	その他	計
心肺蘇生法	22	1		2	25
気道確保	27	1		2	30
うちラリングアルチューブ等	6			1	7
うち気管挿管	10	1			11
除細動	1				1
静脈路確保（輸液）	14	1		1	16
うち薬剤投与	14	1		1	16

○心肺停止前の傷病者に対する2処置（静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与）の状況

単位：件

事故種別 処置項目	急病	一般負傷	交通	自損行為	転院搬送	その他	計
静脈路確保（輸液）	12		1				13
血糖測定	142	7	5	1	4	1	160
うちブドウ糖投与	6						6

○過去5年間ににおける心肺停止傷病者の生存率

	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
心肺停止傷病者搬送人員（人）	26	35	33	24	25
うち、1ヶ月後生存者数（人）	4	2	1	0	1
1ヶ月後生存率（％）	15.3	5.7	3.0	0	4.0
うち、社会復帰者数（人）	3	0	1	0	1
社会復帰率（％）	11.5	0	3.0	0	4.0

立山黒部アルペンルート救急状況

昭和46年7月救急業務開始

出 動 件 数 101件（前年 70件）

搬 送 人 員 71人（前年 45人）

○事故種別出動件数・搬送人員

単位：件、人

種 別	区 分	件 数	搬送人員	性 別		傷 病 程 度 別				
				男	女	死亡	重症	中等症	軽症	その他
急 病		31	26	15	11			7	19	
一 般 負 傷		43	29	16	13		1	15	13	
転 院 搬 送		22	12	6	6			8	4	
交 通 事 故		2	2	2					2	
労 働 災 害		1	1		1			1		
そ の 他		2	1	1					1	
計		101	71	40	31	0	1	31	39	0

○月別・事故種別搬送人員

単位：人

月	急 病		一般負傷		転院搬送		交通事故		労働災害		その他		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
4月		2		1										3	3
5月	4	2	1				1						6	2	8
6月		3	1	1						1			1	5	6
7月	2		2	3	2	2							6	5	11
8月	2	1	2		4	4					1		9	5	14
9月	2	2	6	4									8	6	14
10月	4	1	4	3			1						9	4	13
11月	1			1									1	1	2
計	15	11	16	13	6	6	2	0	0	1	1	0	40	31	71

※立山黒部アルペンルート開通期間は、毎年4月中旬から11月末まで

○居住地別搬送人員

単位：人

種 別	区 分		計
	男	女	
管 内	1	2	3
管 外	39	29	68
計	40	31	71

○過去10年間の救急状況

単位： 上 段：件
下 段：人

区 分	年									
	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
出 動 件 数	86	87	78	96	20	34	62	62	70	101
搬 送 人 員	62	60	50	59	13	23	39	40	45	71

富山県ドクターヘリ要請状況

平成27年8月24日運行開始

要 請 件 数 18件（前年 14件）

搬 送 人 員 13人（前年 11人）

○事故種別出動件数・搬送人員

単位：件、人

種別	区分	件 数	搬送人員	性 別		傷 病 程 度 別				
				男	女	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他
交 通										
一般負傷		2	2		2		1	1		
急 病		14	10	6	4		6	4		
上記以外		2	1		1			1		
計		18	13	6	7	0	7	6	0	0

○月別・事故種別搬送人員

単位：人

月	区分	急 病		交 通		一般負傷		そ の 他		計		合 計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1月			1								1	1
2月												0
3月		1								1		1
4月			2								2	2
5月							1				1	1
6月		2					1			2	1	3
7月												0
8月		1						1		1	1	2
9月												0
10月		2								2		2
11月												0
12月			1								1	1
計		6	4	0	0	0	2	0	1	6	7	13

○居住地別搬送人員

単位：人

種別	区分	男	女	計
管 内		4	5	9
管 外		2	2	4
計		6	7	13

○ランデブーポイント数

（令和8年4月1日現在）

富山県全体	611箇所
うち立山町	39箇所

※「ランデブーポイント」
傷病者を乗せた救急車とドクターヘリが合流するため、事前に設定した場所。

富山市と立山町との消防相互応援協定

平成23年7月28日締結

※「富山市と立山町との消防相互応援協定」とは、横江（立山地区）、千垣、芦峠寺、千寿ヶ原の地区で緊急性及び特殊性の高い救急事案について立山町の要請に基づき富山市（小見救急隊）が救急応援出動するものです。

※立山黒部アルペンルートでの事故は協定の対象外となります。

受援件数 1件（前年 5件）

搬送人員 1人（前年 4人）

○事故種別出動件数・搬送人員

単位：件、人

区分 種別	件数	搬送人員	性別		傷病程度別				
			男	女	死亡	重症	中等症	軽症	その他
急病	1	1	1			1			
計	1	1	1	0	0	1	0	0	0

○過去5年間の状況

単位：上段：
下段：

区分	年	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
受援件数		5	4	6	5	1
搬送人員		5	2	3	4	1

北陸自動車道救急状況

立山町管轄 上り(金沢方面) 立山IC～流杉スマートIC
下り(新潟方面) 立山IC～滑川IC

出 動 件 数 1件 (前年 1件)

搬 送 人 員 1人 (前年 0人)

○過去10年間の救急状況

単 位 : 上 段 : 件
下 段 : 人

区 分 年	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7
出 動 件 数	1	5	0	1	2	2	2	1	1	1
搬 送 人 員	3	2	0	0	2	2	2	1	0	1

富山市・富山県東部消防組合・立山町 消防相互応援協定

令和5年2月17日締結

※この協定は、火災、救急、救助又はその他の災害等が発生した場合に相互の消防力を活用して災害等による被害を軽減することを目的としています。

○富山市消防局

・応援件数 0件 （前年 0件）

・救急受援件数 3件 （前年 4件） 搬送人員 2人 （前年 4人）

単位：件、人

種別	区分	件 数	搬 送 人 員	性 別		傷 病 程 度 別				
				男	女	死亡	重症	中等症	軽症	その他
急 病		2	1	1					1	
水 難		1	1		1			1		
計		3	2	1	1	0	0	1	1	0

○富山県東部消防組合消防本部

・応援件数 0件 （前年 火災応援 1件）

・受援件数 0件 （前年 救急1件 搬送人員1人）

救 助 ・ 捜 索 概 況

令和7年中の救助出動件数は20件で前年比4件減少となりました。捜索は1件です。
富山県消防防災ヘリコプター要請件数は9件でした。

○救助・捜索出動及び活動状況

単位：件、人

区 分 \ 月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
救 助 件 数		1		2	2	1		5	3	3	1	1	1	20
捜 索 件 数								1						1
救 助 ・ 捜 索 人 員		2		3	1	1		5	1	1		1	1	16
事 故 種 別 出 動 件 数	火 災	建 物												0
		建物以外												0
	交 通 事 故		1		1			2	1	1	1	1		8
	水 難 事 故				1			1						2
	風水害等自然災害													0
	機 械 に よ る 事 故													0
	ガス及び酸欠事故													0
	爆 発 事 故													0
	建物等による事故					1	1	1					1	4
	そ の 他 の 事 故					1		1	2	2				6
	捜 索							1						1
合 計		1	0	2	2	1	0	6	3	3	1	1	1	21

○過去3年間の救助・捜索出動及び活動状況

単位：件、人

区 分 \ 年	令和5年	令和6年	令和7年
救 助 件 数	14	24	20
捜 索 件 数	0	3	1
救 助 ・ 捜 索 人 員	8	26	16

○富山県消防防災ヘリコプター要請状況

単位：件、人

区 分 \ 年	令和7年
救助・救急要請件数	9
その他要請件数	0
搬 送 人 員	9

○消防団山岳救助協力隊の現況

(令和8年4月1日現在)

名称	隊員数	結成年月日	分団名	備考
消防団山岳救助協力隊	6	平成2年5月1日	立山	

○女性防火クラブの現況

(令和8年4月1日現在)

名称	隊員数	結成年月日	地区	備考
立山町女性防火クラブ	23	平成28年4月1日	5地区	

○幼年消防クラブの現況（7クラブ）

(令和8年4月1日現在)

名称	クラブ員数	結成年月日	地区名	備考
高原保育園 幼年消防クラブ	41	昭和57年5月1日	高野	
むつみ幼稚園 幼年消防クラブ	40	昭和58年5月1日	五百石	
あおぞら保育園 幼年消防クラブ	70	平成21年4月1日	利田	
かがやき保育園 幼年消防クラブ	63	平成27年4月1日	五百石	
岩嶺保育所 幼年消防クラブ	9	平成13年10月1日	立山	
下段保育所 幼年消防クラブ	20	昭和33年10月1日	下段	
みどりの森保育園 幼年消防クラブ	45	平成16年4月1日	大森	
計	288			

○少年消防クラブの現況（6クラブ）

(令和8年4月1日現在)

名称	クラブ員数	結成年月日	地区名	備考
釜ヶ淵小学校 少年消防クラブ	27	昭和36年1月25日	釜ヶ淵	
立山中央小学校 少年消防クラブ	268	昭和36年4月7日	五百石	
立山北部小学校 少年消防クラブ	60	昭和39年10月8日	新川	
高野小学校 少年消防クラブ	40	昭和46年6月16日	高野	
利田小学校 少年消防クラブ	101	昭和48年2月19日	利田	
立山小学校 少年消防クラブ	29	昭和50年12月4日	立山	
計	525			

2026 年度 全国統一防火標語

「火の確認 いい日を支える いい習慣」

住宅用火災警報器を設置しましょう！

－購入したまま取り付けずに放置していませんか？－

まだ設置されていないご家庭は早急に設置をお願いします。

住宅火災警報器の維持管理について

- ・ 定期的に動作するか確認してください。
- ・ 電池や本体に寿命がありますので、交換時期を確認してください。



ぜひ住宅用火災警報器を設置してほしいのよ！
点検も忘れずにたのんだぞ！

立山町マスコットキャラクター「らいじい」

令和 8 年消防年報

令和 8 年 7 月発行

立 山 町 消 防 本 部

〒930-3265

富山県中新川郡立山町米沢36

TEL (076) 463-0005

FAX (076) 463-1610

Email syoubou@town.tateyama.lg.jp

編集・発行 立山町消防署通信指令係